

「くらしと仕事に関するインターネット調査」からみた 中年未婚男性の生活実態と意識：調査結果の概要

高山 憲之

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構研究主幹・一橋大学名誉教授

2016年1月

1 問題の所在

日本では最近、中年の未婚男性が急増している。ちなみに2010年10月時点における未婚男性の数は40～59歳層で約340万人に達しており、10年前の216万人と比べると124万人（57%）の増となっていた（総務省『国勢調査』）。この増大傾向は今後とも当分の間、変わらないだろう。

図表1は中年男性の未婚率について最近の動向を調べた結果である。中年男性の未婚率は、この間、一貫して上昇してきた。40～44歳層に着目すると、2010年時点の未婚率は29%となっており、10年前より10ポイントも上昇している。

図表2は同一コーホート別にみた未婚率の変化分を示したものである。2010年時点で40～44歳であった男性コーホートの未婚率は5年前と比べると1.4ポイント下がったものの、低下幅はきわめて小さい。また、同時点で45～59歳であった男性コーホートの未婚率は対5年前比で変化がほとんどなかった¹。40歳以上になると、中年男性の未婚率はほとんど下がらない。これが昨今における日本の実態にほかならない。

図表1 中年男性の未婚率：最近の動向

年齢 (歳)	未婚率(%)		
	2000年	2005年	2010年
30～34	42.9	47.1	47.3
35～39	26.2	30.0	35.6
40～44	18.7	22.0	28.6
45～49	14.8	17.1	22.5
50～54	10.3	14.0	17.8
55～59	6.1	9.8	14.7

出所) 総務省統計局『国勢調査』

図表2 中年男性の未婚率：同一コーホート別にみた最近の変化分

2000年 の年齢 (歳)	2010年 の年齢 (歳)	未婚率(%)	
		2000年→2005年	2005年→2010年
30～34	40～44	-12.9	-1.4
35～39	45～49	-4.2	0.5
40～44	50～54	-1.6	0.7
45～49	55～59	-0.8	0.7

出所) 総務省統計局『国勢調査』

生涯未婚の男性は日本では今後、確実に増えていき、近い将来、相当な数に達すると推測しても大過ないだろう。それにもかかわらず、その生活実態や意識等に関する研究は藤森（2010）を例外とすると、今のところ、ほとんどない。

このような事実を鑑み、(公財)年金シニアプラン総合研究機構では、このたび、中年未婚者について女性だけでなく男性を含めたアンケート調査を実施した。その調査結果等や分析結果は本特集の各論文にとりまとめられている。なお、年金シニアプラン総合研究機構では未婚の中年女性を主な調査対象とするアンケート調査を過去3回にわたって実施しており、今回、その調査シリーズの中で中年の未婚男性1000人強を初めて調査対象に加えた。

他方、世代間問題研究プロジェクトでは第1回ねんきん定期便に記された（あるいは、ねんきんネットからダウンロードした）一人ひとりの公的年金加入記録の転記を求めるとともに、仕事や家族の状況さらには老後生活等に係る計画・意識を世代別に調べるため、「くらしと仕事に関するインターネット調査」を2011年から順次、実施してきた。その調査は未婚の中年男性を念頭に置いた調査ではない。ただ、2011年調査には、調査時点年齢で40～60歳の未婚男性が433サンプル含まれていた。サンプル数は少ないものの、そのデータを使えば、彼らの生活実態や意識をそれなりに調べることができる。そこで、この論文では、その調査結果を紹介することにしたい。

本論文の構成は次のとおりである。第2節で使用データを解説し、第3節では、サンプルの基本属性、調査時点の就業状況、子づくり計画、中学生時代の状況、老後・介護関連情報、健康・余暇・主観的厚生関連情報、所得・保有資産、住宅・地域関連情報、公的年金加入実績等について順次、単純集計結果を紹介する。その際、既婚男性に係る調査結果との比較も部分的に試みる。そして、第4節では、本論文における主要な論点を要約するとともに、残された課題に言及したい。

2 データ

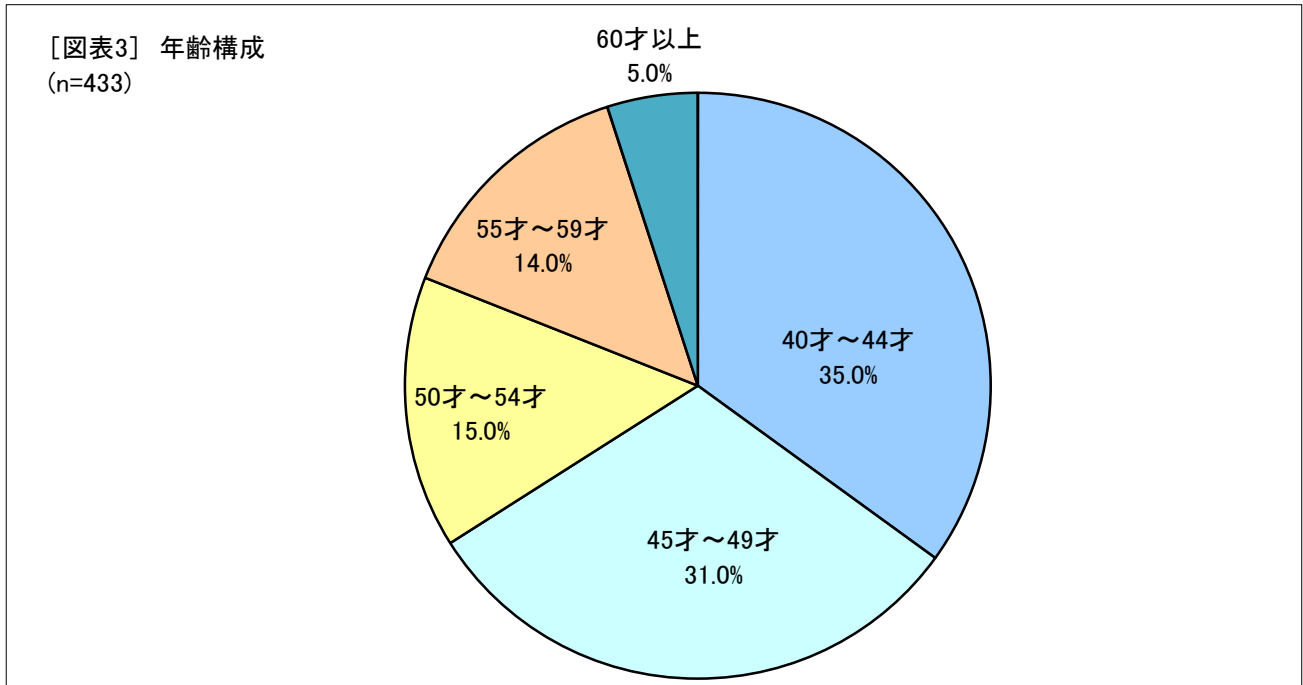
前述したように、世代間問題研究プロジェクトでは、2009年度に送付された第1回ねんきん定期便に着目し、その記載内容を転記してもらおうと同時に、転記内容を手掛かりにして、確実に記憶していると思われる人生の重要なイベント（転職状況、結婚・離別・死別、出産、親との同居・別居、学歴など）について質問する一方、現時点のくらしと仕事や将来の計画・見直しに関する数多くの項目などについても質問した「くらしと仕事に関するインターネット調査」を2011年11～12月に実施した。

その調査対象は、2009年度の「ねんきん定期便」を保管しており、かつ、インターネット調査会社（マクロミル社）のモニターとして登録されている人のうち、①1971年11月1日生まれ～1981年10月31日生まれ（30歳代）、②1961年11月1日生まれ～1971年10月31日生まれ（40歳代）、③1951年4月1日生まれ～1960年3月31日生まれ（50歳代）について、男女各1000人を割り当てた（合計で約6000人）。そして、目標客数に到達するまで調査を継続した。ただ、調査終了後に転記項目間の関連をチェックし、不整合のあるデータを除外した。有効回答サンプル数は5953であった。なお、サンプルには高学歴者等への偏りが認められたものの、サンプルにウェイトづけることにより、それはかなりの程度まで補整することが可能である。詳細は高山憲之・稲垣誠一・小塩隆士（2012）を参照されたい。

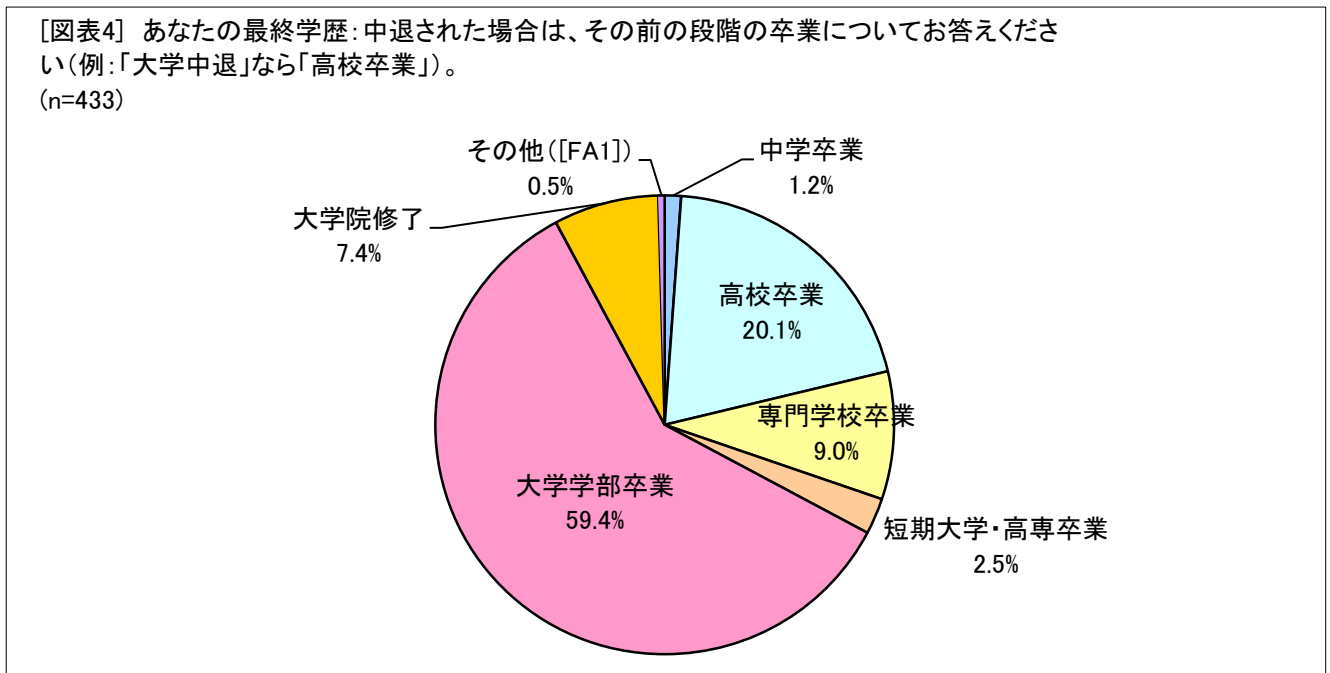
本章では、上記調査から40歳以上の未婚男性433サンプルを抽出し、データを再集計した。

3 サンプルの基本属性

未婚中年男性のサンプル総数は433人であり、そのうち411人は調査年度末（2012年3月末）の年齢が40～59歳であった。40歳台66%、50歳台29%であり、40歳台がサンプル総数の3分の2程度を占めていた。

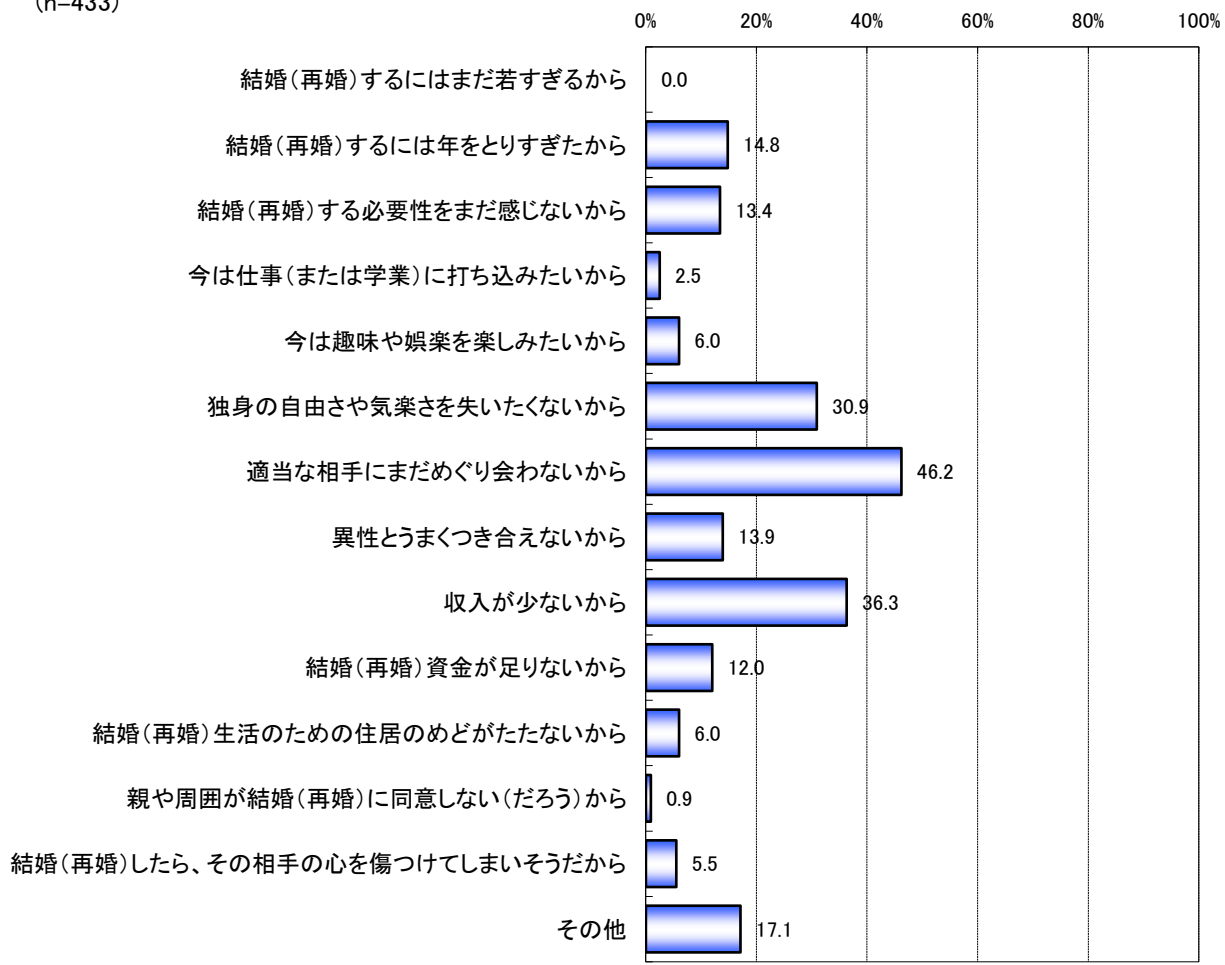


最終学歴は図表4のとおりであり、大卒が59%で最も多く、高卒20%、専門学校卒9%等であった。



未婚理由は、「適当な相手がいない」が46%、低収入36%、気楽31%等であった。

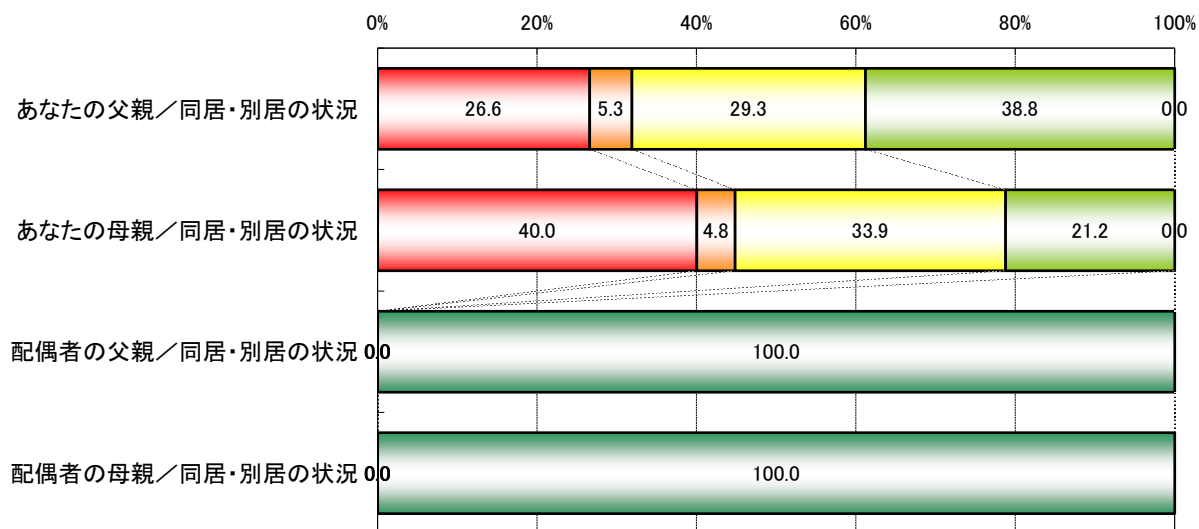
[図表5] あなたが独身でいる、あるいは再婚しない理由（複数回答可）
(n=433)



両親との同居状況については、まず、父親が存命中という回答者のサンプル割合は61%であり、同居中の人は32%（存命中の52%強）となっていた。一方、母親存命中は79%、母親と同居中45%（存命中の57%弱）であった。親が存命中の場合、半数強が両親または、そのいずれかと同居しており、親との同居率が比較的高い。

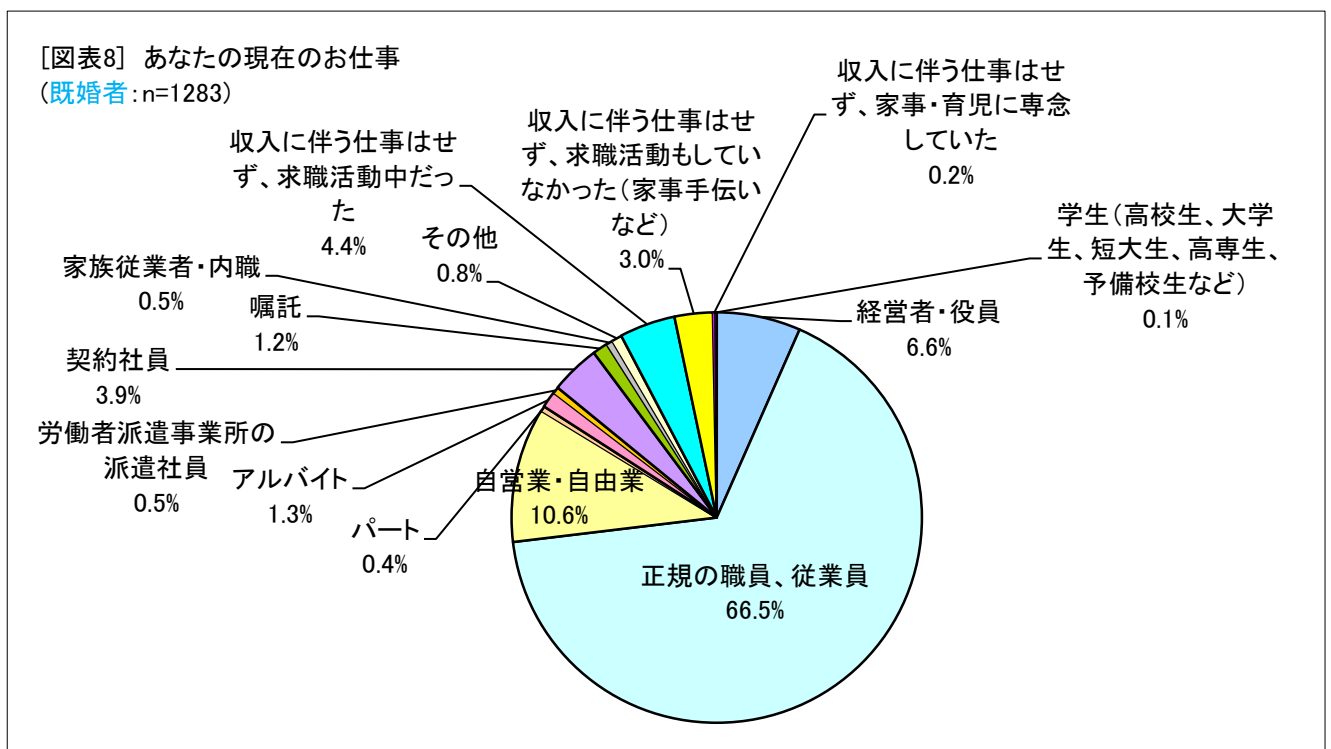
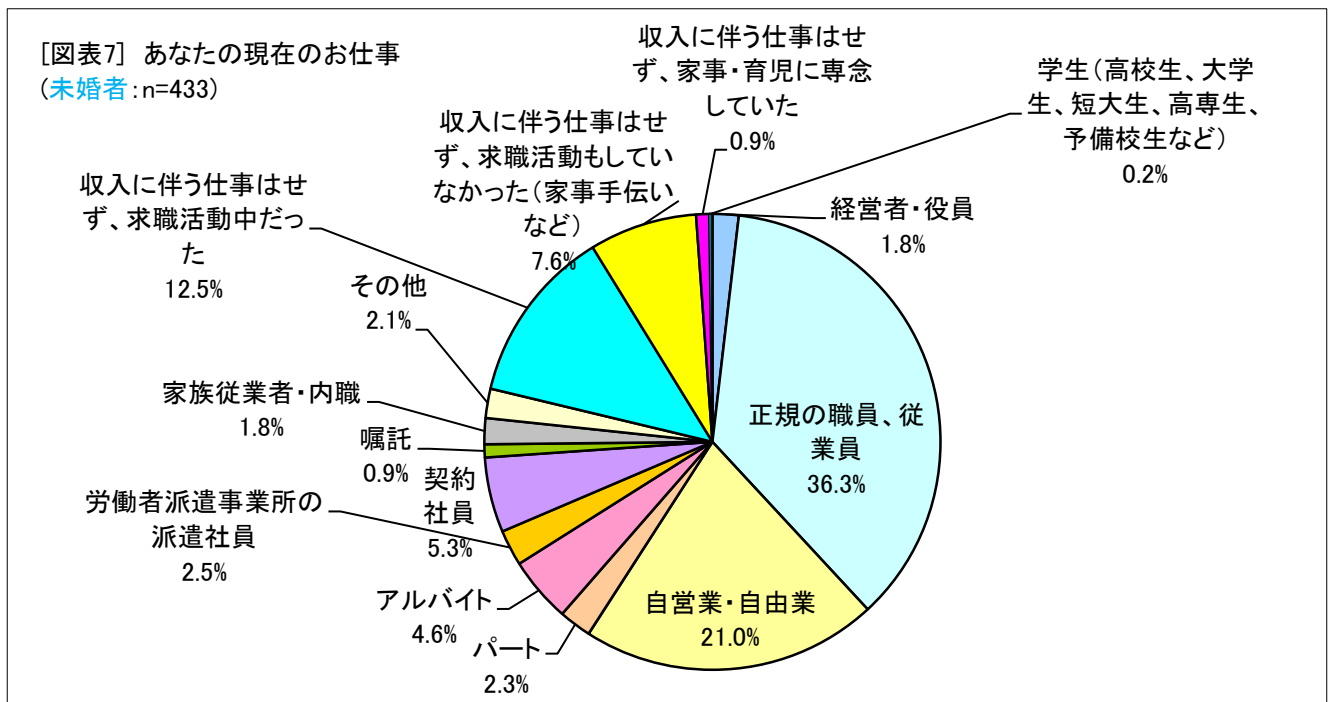
【図表6】 あなたのご両親との同居・別居の状況

- 同居(同一敷地内を含む)で生計を一にしている
- 同居(同一敷地内を含む)しているが、生計は別になっている
- 別居
- 死亡
- 無回答

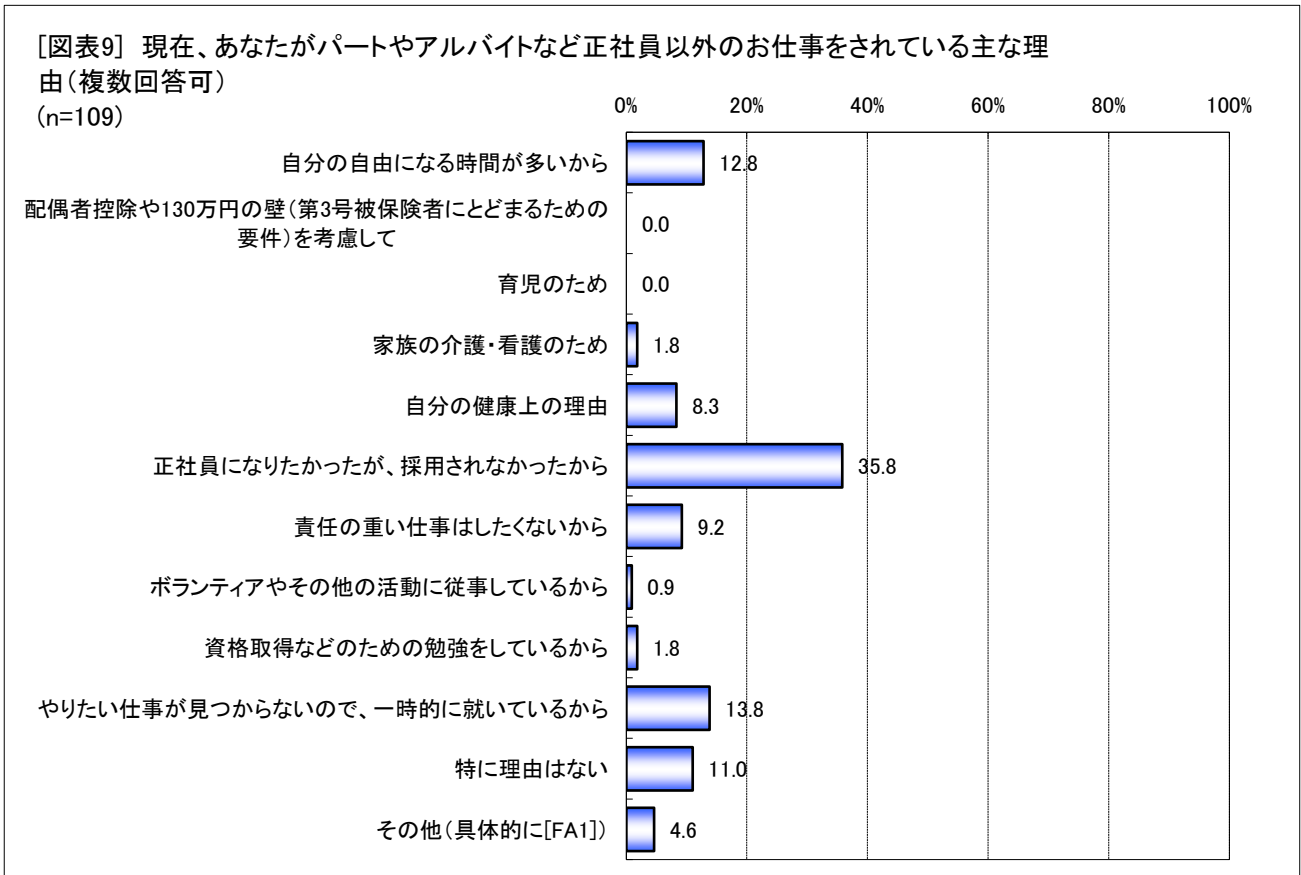


調査時点の就業状況

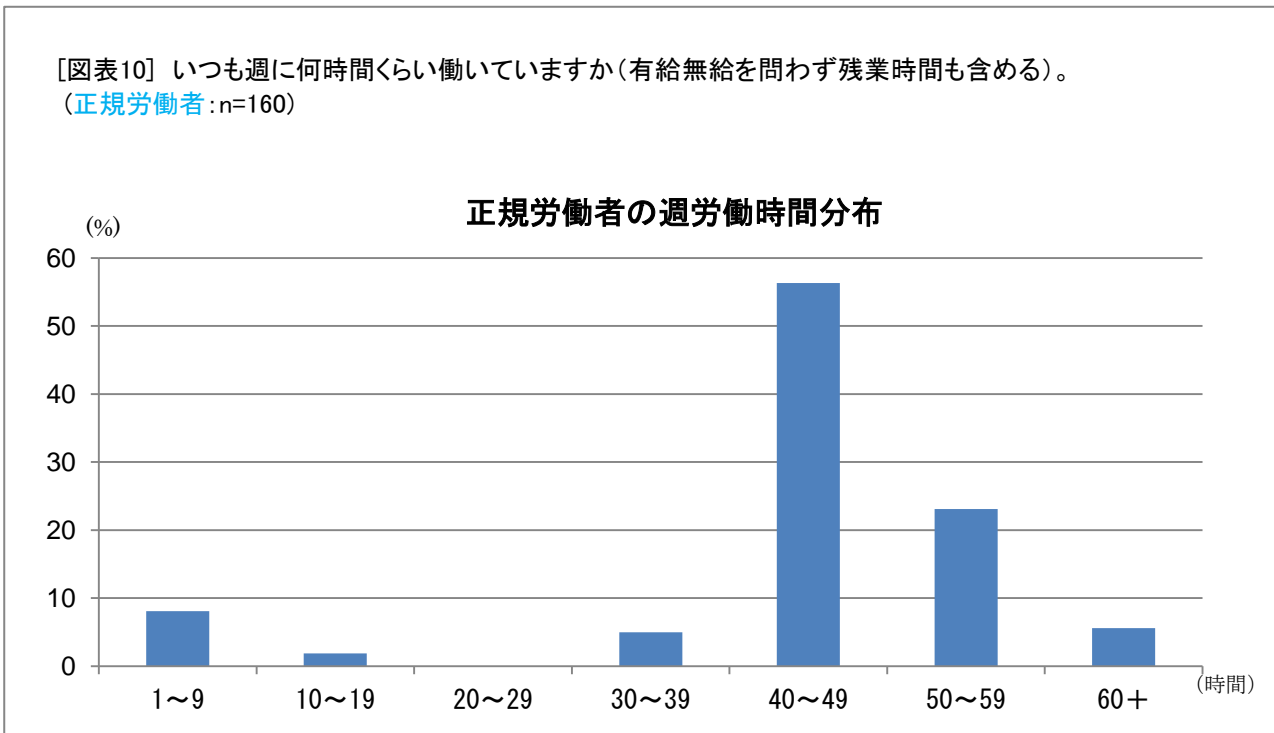
調査時点における就業状況は正規（プラス役員）が38%で最も多く、次いで自営業・自由業が21%、非正規（契約、アルバイト、派遣、パート、嘱託）16%、失業・求職中13%、無職8.5%となっていた。他方、既婚（離別・死別を除く）男性の場合、正規が73%と圧倒的に多く、自営業・自由業が11%、非正規7.3%、失業・求職中4.4%、無職3.2%となっていた。未婚の中年男性は正規が少なく、その分だけ、非正規や失業中、無職の人が多。また、自営業や自由業の人も比較的多い²。



非正規で就業している理由は「正社員になりたかったが、採用されなかった」が最も多かった（36%）。

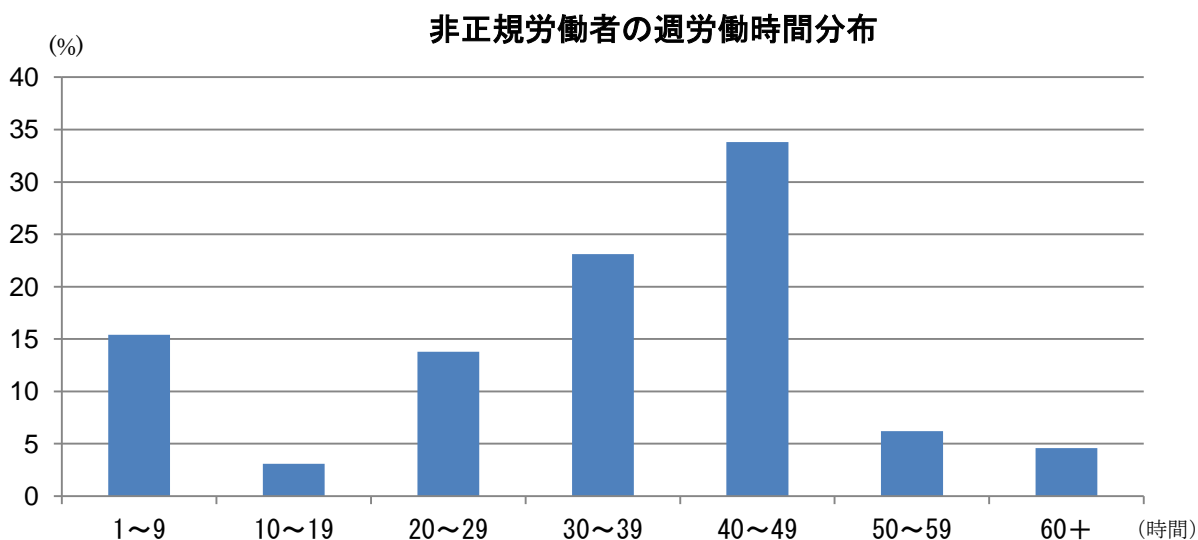


正規労働者（役員込み）の就労時間分布は図表 10 のとおりであり、週 40～49 時間の人が 56%を占めていた。また、週 50～59 時間の人が 23%、60 時間以上が 6%いた一方、30～39 時間の人が 5%いた。



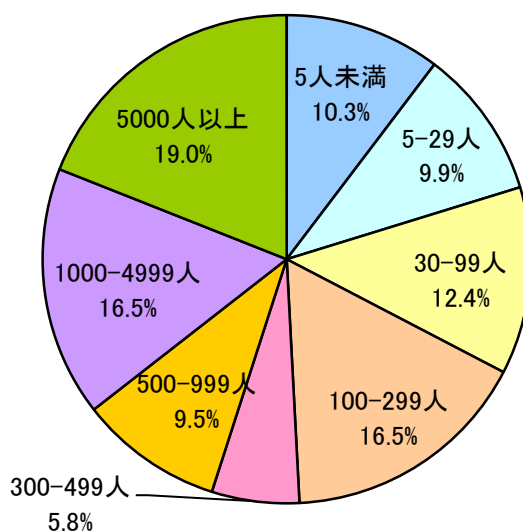
非正規労働者だけを抽出して、その週労働時間の分布を調べたところ、30～39時間の人が24%弱、40時間以上の人44%強を占めており、非正規であっても正規の人並みに働いている人が3分の2以上いた。

[図表11] いつも週に何時間くらい働いていますか(有給無給を問わず残業時間も含める)。
(非正規労働者:n=65)



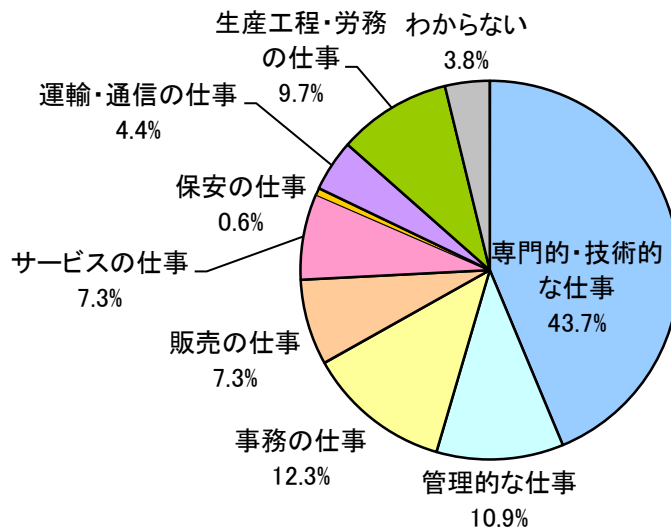
勤め先を企業規模別にみると、5000人以上19%、1000人以上5000人未満17%、300人以上1000人未満15%等となっており、大企業勤務者が50%強を占めていた。

[図表12] あなたの現在の勤め先:従業員規模
(会社の場合、全国の事業所全体の従業員数)
(n=242)



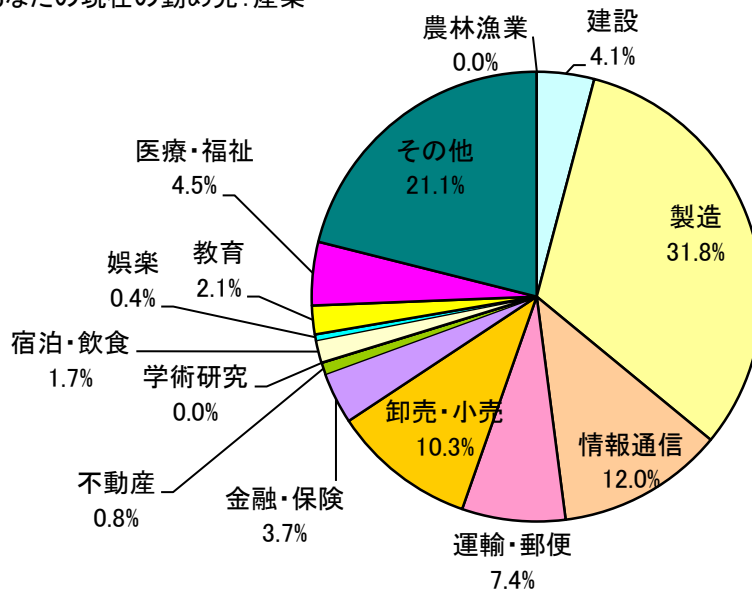
現職の職務内容は専門的・技術的な仕事が44%、管理業務11%、事務12%等、オフィスワークが3分の2を占めていた³。

[図表13] あなたの現在の仕事:職務内容
(n=341)



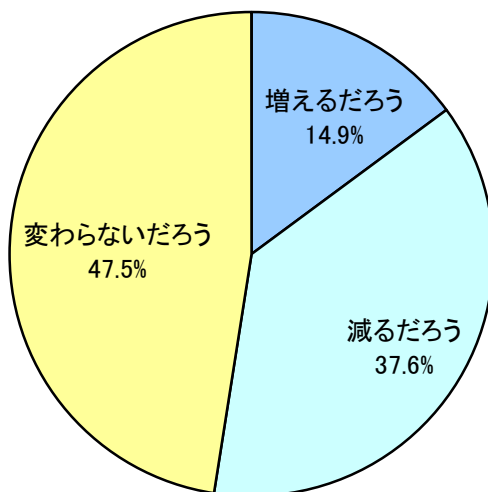
産業分類別に勤め先を整理した結果は図表14のとおりであり、製造業が32%、情報通信12%、卸売・小売10%等となっていた。

[図表14] あなたの現在の勤め先:産業
(n=242)



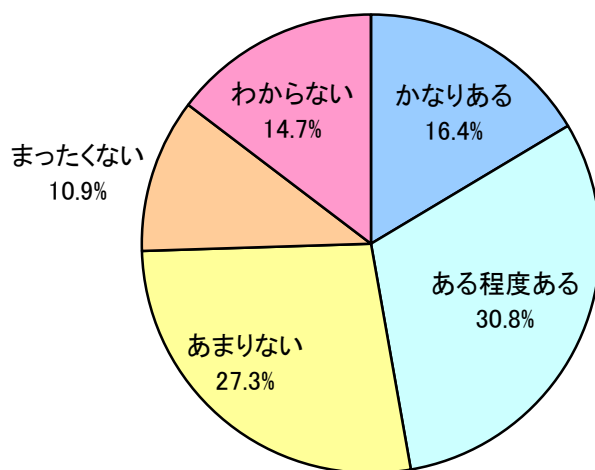
現職の勤務先における従業員数が、この先2年間に減ると予想していた人が38%いた。

[図表15] あなたの属する勤務先の発展をどのように見込んでいるかについてお伺いします。被雇用者の数はこの先2年間に増えると思いますか。減ると思いますか。
(n=242)



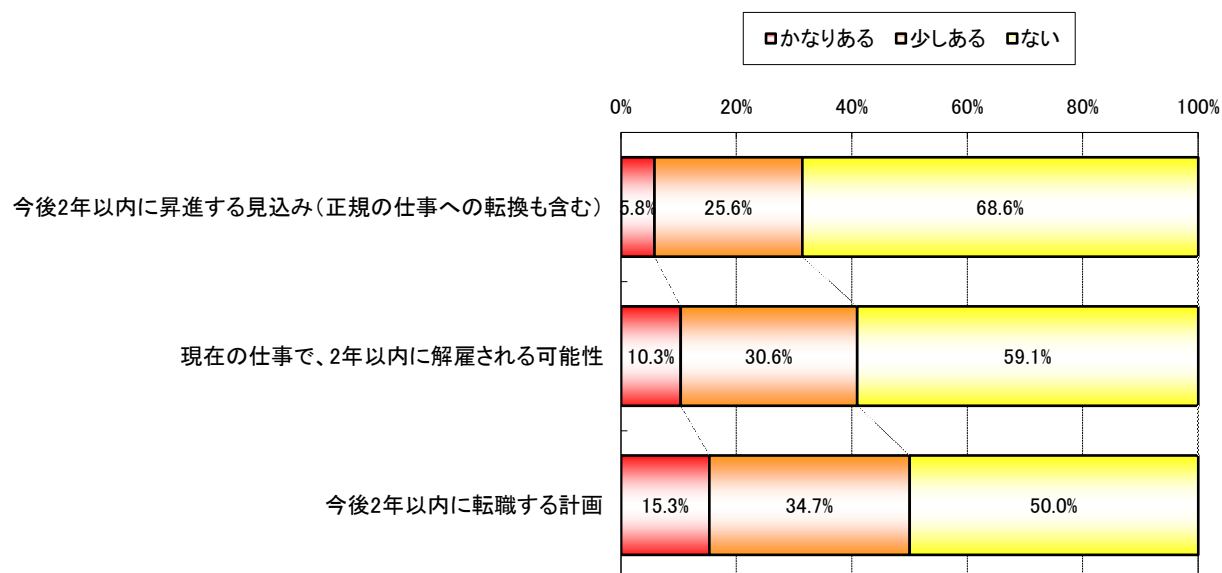
未婚中年男性の場合、今後2年間に失業する可能性が「かなりある」人は16%、「ある程度ある」人は31%となっていた。一方、既婚中年男性の失業可能性は、「かなりある」が7.9%、「ある程度ある」が24%であった。未婚中年男性の失業可能性は相対的に高い。

[図表16] 今後2年間にあなたご自身が失業する可能性はあると思いますか。
(n=341)



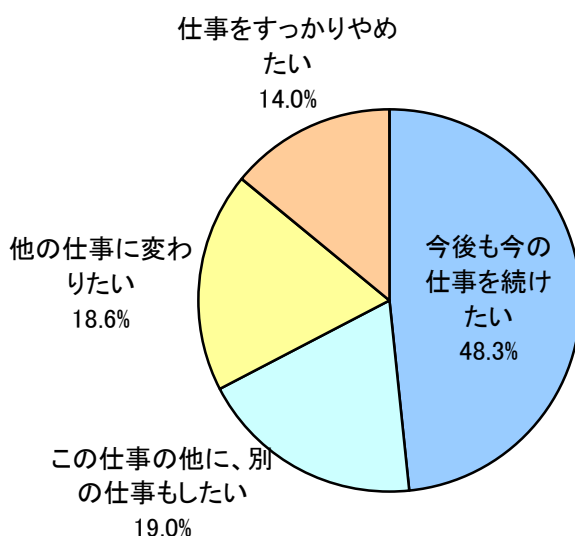
未婚中年男性の場合、今後2年以内に解雇される可能性がかなりある人が10%いた一方、かなり高い確率で2年以内に転職する計画を有していた人が15%、2年以内の転職計画を少し有していた人が35%いた。既婚者の場合、それらの割合は5.9%、8.5%、19%となっていたので、未婚者の方が解雇される可能性や転職の可能性は相対的に高い。

[図表17] あなたにとって、次のような見込みや計画はどのくらいありますか。

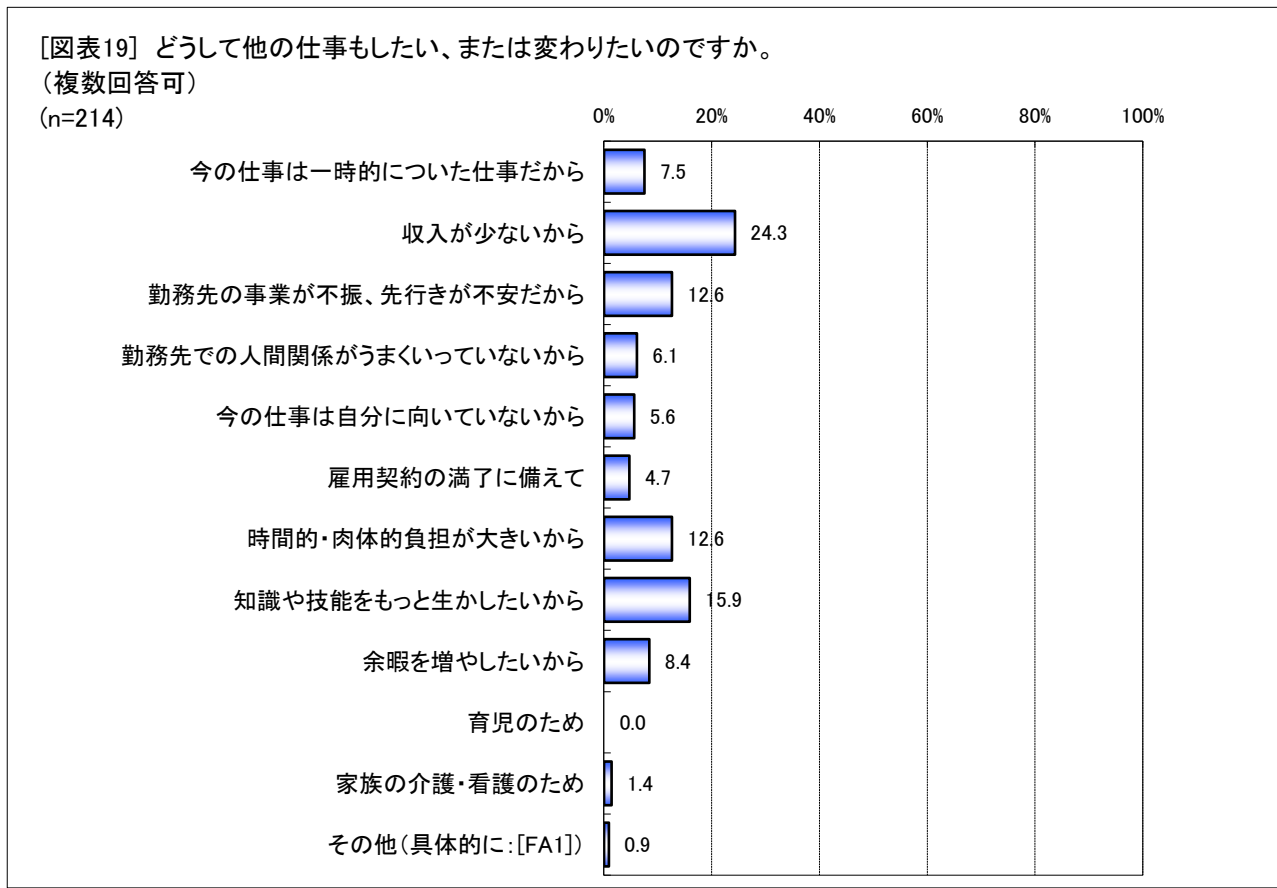


今の仕事から他の仕事に変わりたい人が19%いた。さらに、仕事をすっかりやめたい人が14%いた。

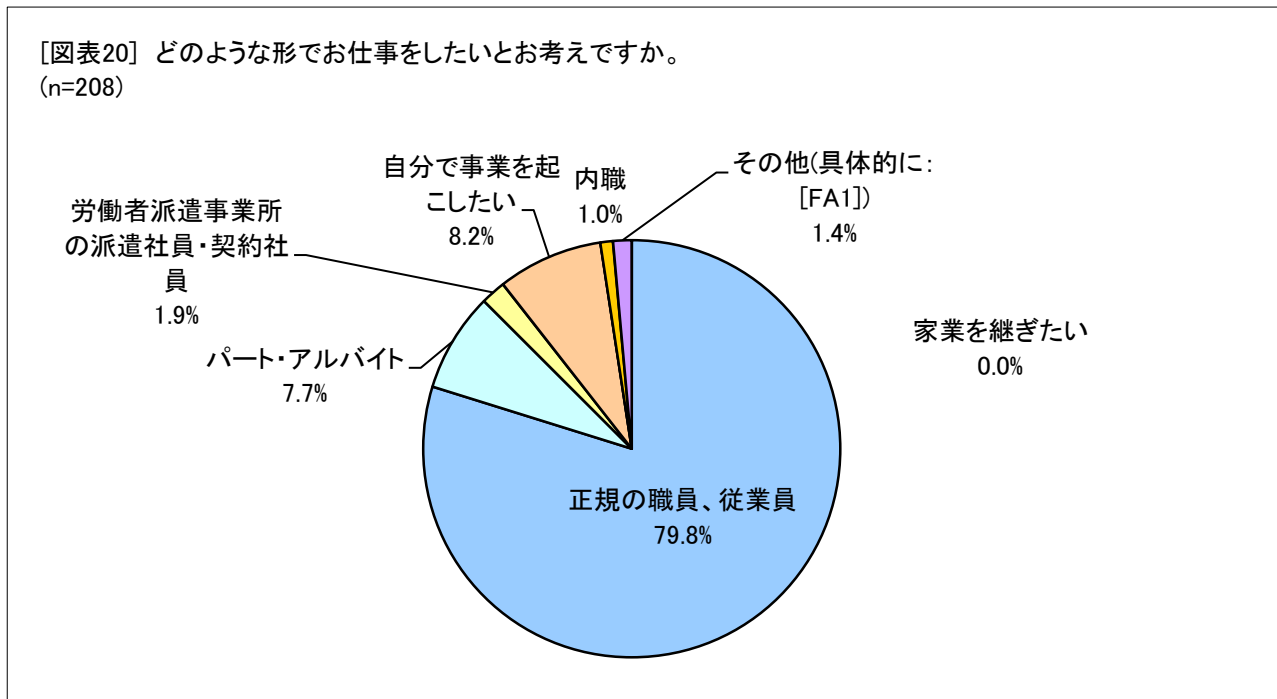
[図表18] あなたは今後も今のお仕事を続けたいですか。同じ会社で配置や勤務地を変えたい場合は、「この仕事を続けたい」とします。
(n=242)



転職ないしマルチジョブを希望する理由として比較的多いのは、現職の低収入（24%）、「知識や技能をもっと生かしたい」（16%）等であった。



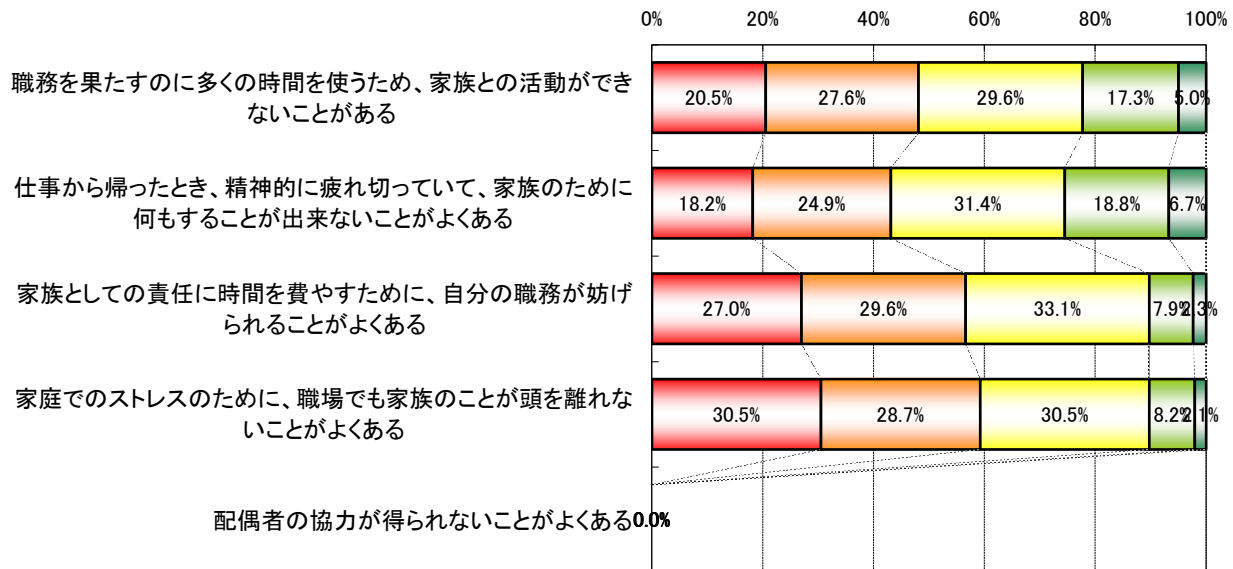
就業形態としては、正規の仕事に就きたい人が80%に達しており、圧倒的に多かった。パート等非正規就業を希望する人は9.6%にとどまっていた。



家族との関わりが職務の妨げになっていた人は10%前後にすぎず、その割合は既婚者とはほぼ同じであった。

[図表21] あなたは、ご自分の仕事と家庭生活の両立に関して、次のような気持ちになることはありますか。

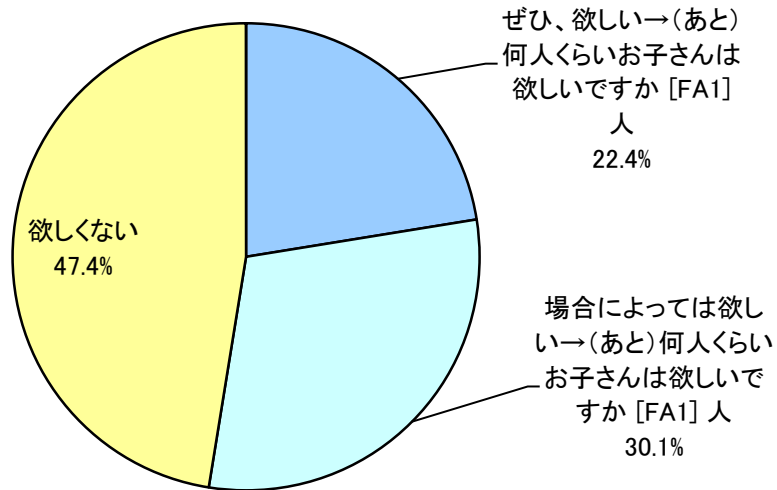
□全くあてはまらない □あまりあてはまらない □どちらともいえない □まあ、そのとおりである □全くそのとおりである



子づくり計画

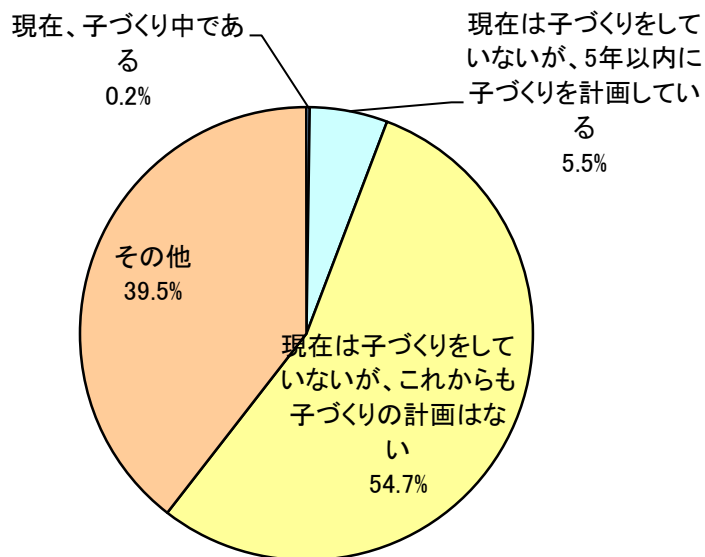
子どもをぜひ、欲しいと希望している人が 22%いた一方、子どもは欲しくないと回答した人が 47%いた。

[図表22] 今後、お子さんは(もっと)欲しいですか。現在お子さんがいらっしゃらない方は、欲しいお子さんの数をお考えください。
(n=196)

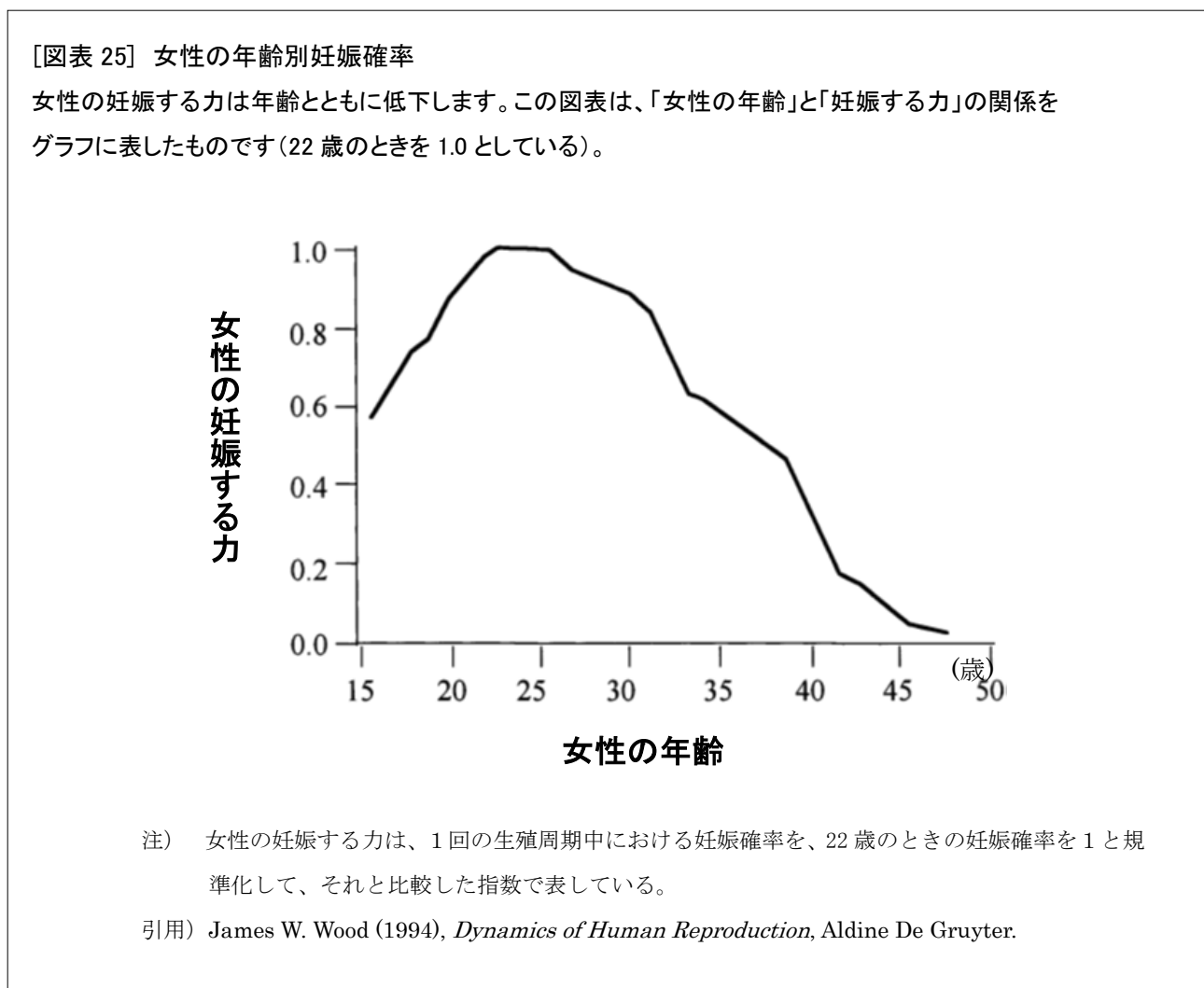
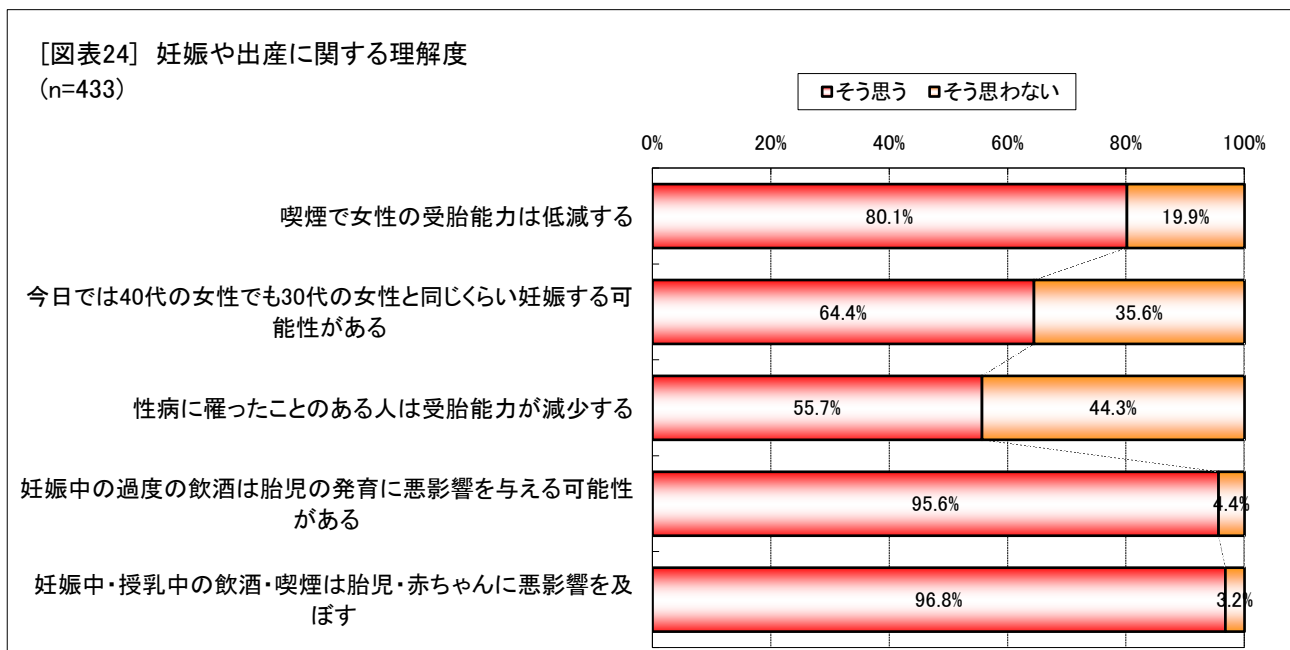


現在、子づくり中である人は 0.2%であり、皆無に近かった。また、5年以内の子づくりを計画している人も 5.5%にとどまった。

[図表23] 子づくりについて、あなたは次のどれに当てはまりますか。
(n=443)

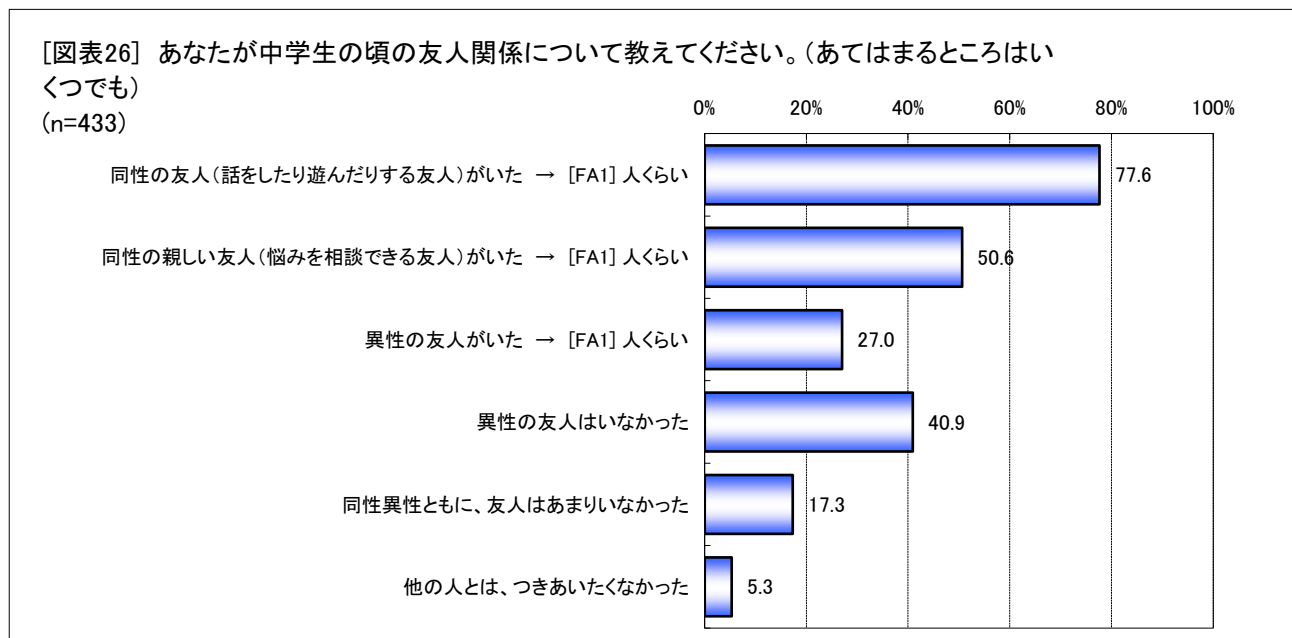


「40代の女性も30代の女性と同じくらい妊娠する可能性がある」と誤解している人が64%もいた。

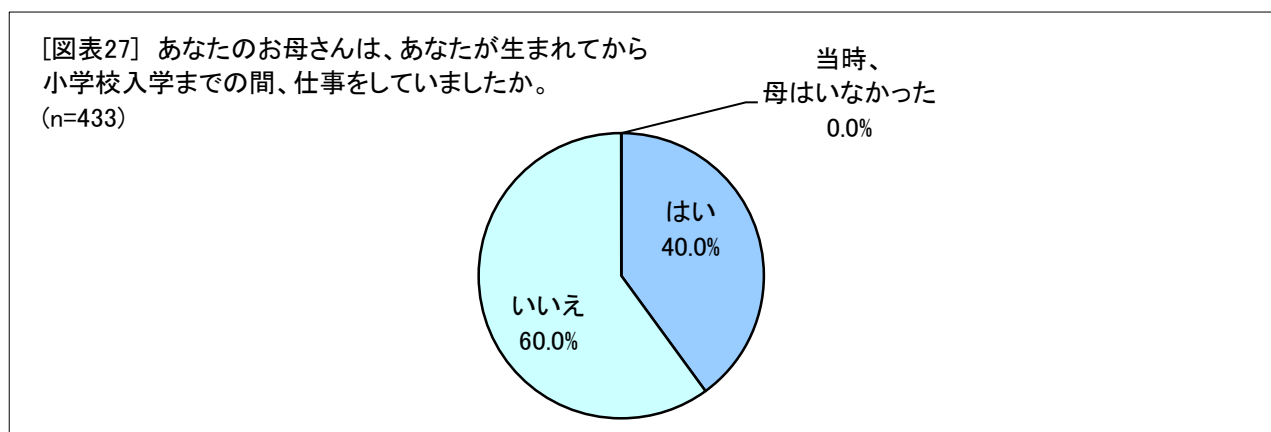


本人が15歳前後だった頃の状況

中学生時代、異性の友人がいなかった人は41%に達していた。また、他の人とのつきあいに消極的だった人が5%いた。既婚中年男性の場合、それらの割合は17%、0.8%であったので、未婚中年男性の値は、かなり高めであった。

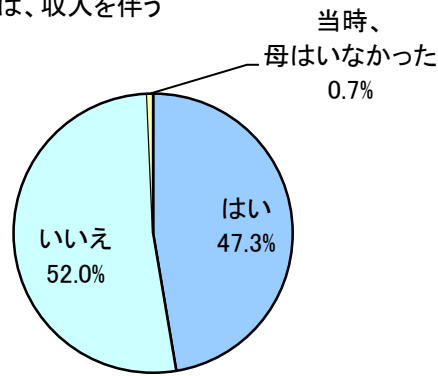


本人が生まれてから小学校入学までの間に、母親が収入を伴う仕事をしている人のサンプル割合は40%であった。



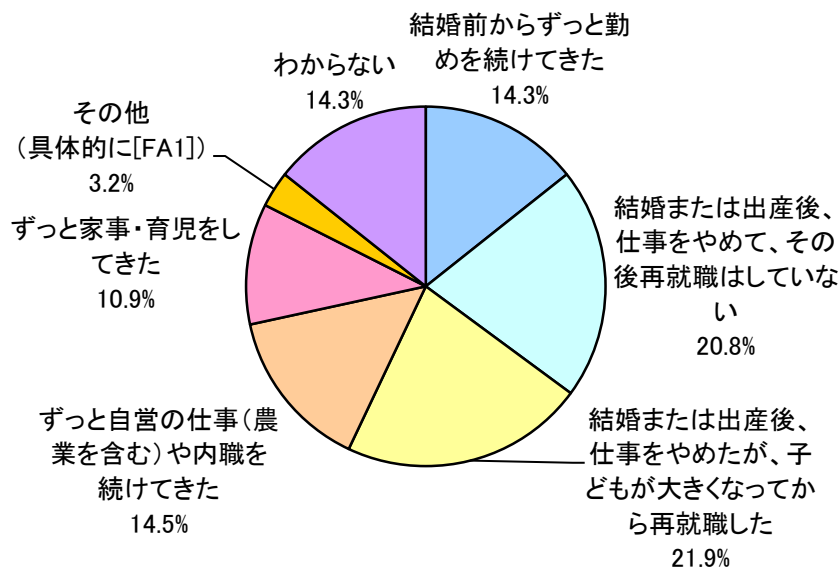
本人15歳時に母親が収入を伴う仕事をしている人のサンプル割合は47%であった。

[図表28] あなたが15歳のころ、お母さんは、収入を伴う
仕事をしていましたか。
(n=433)



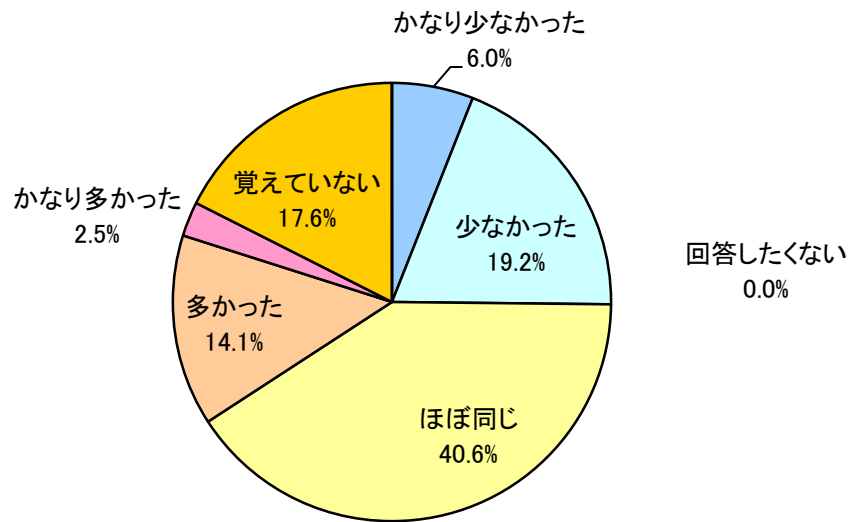
母親の就業経歴は図表 29 のとおりであり、「結婚前からずっと勤めを続けている」が 14%、「ずっと自営の仕事や内職を続けていた」15%、いったん仕事をやめたが「子どもが大きくなってから再就職した」22%、となっていた。一方、いったん仕事をやめた後「再就職はしていない人」が 21%、ずっと家事・育児をしてきた人が 11%いた。

[図表29] あなたのお母さんの就業経歴
(n=433)



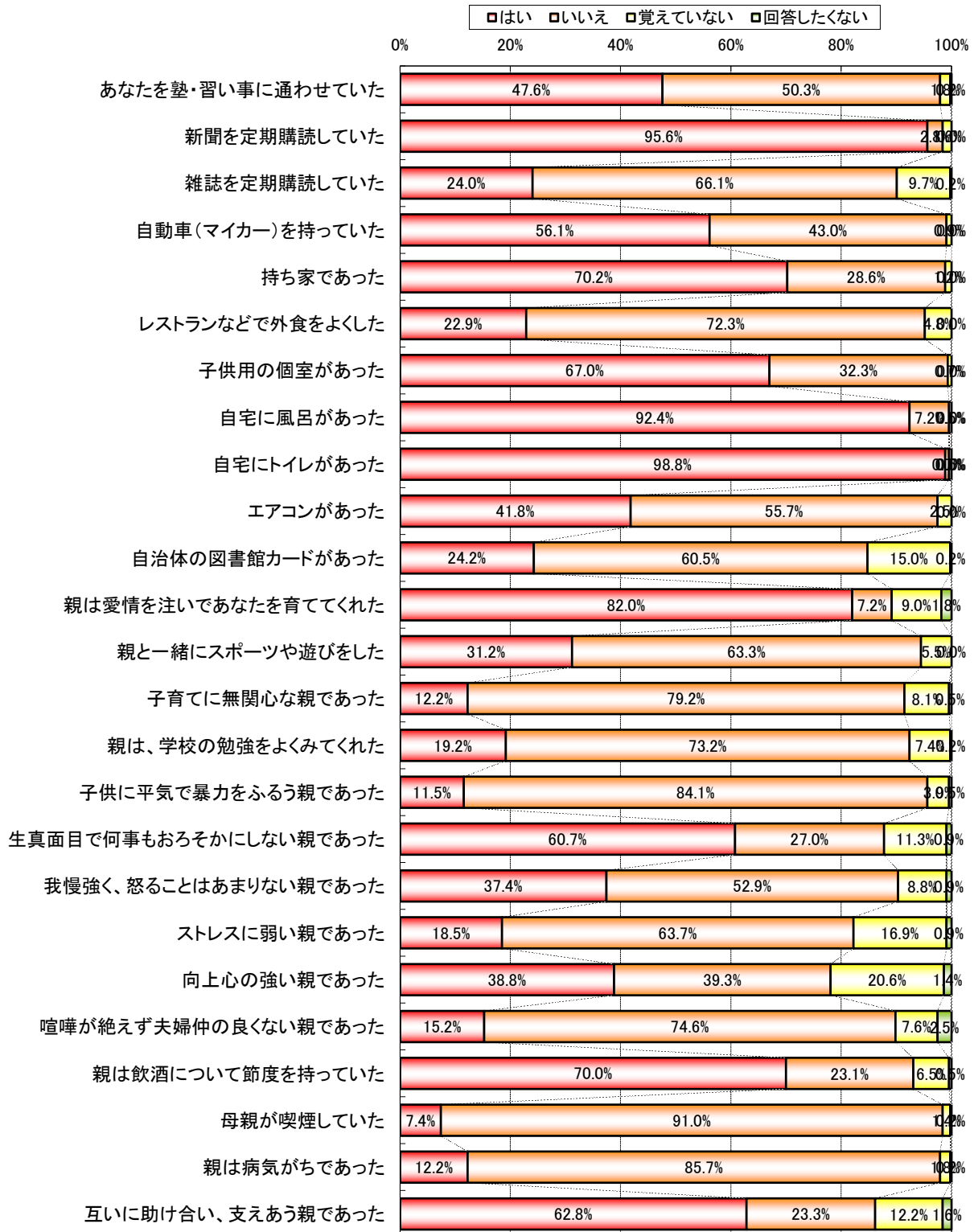
本人 15 歳頃の世帯収入は図表 30 に示されている。未婚中年男性に特有の世帯状況はとくにないようである。

[図表30] あなたが15歳の頃、あなたの世帯の収入は、隣近所の世帯と比べてどうでしたか。
(n=433)



本人 15 歳頃の世帯状況は図表 31 のとおりである。

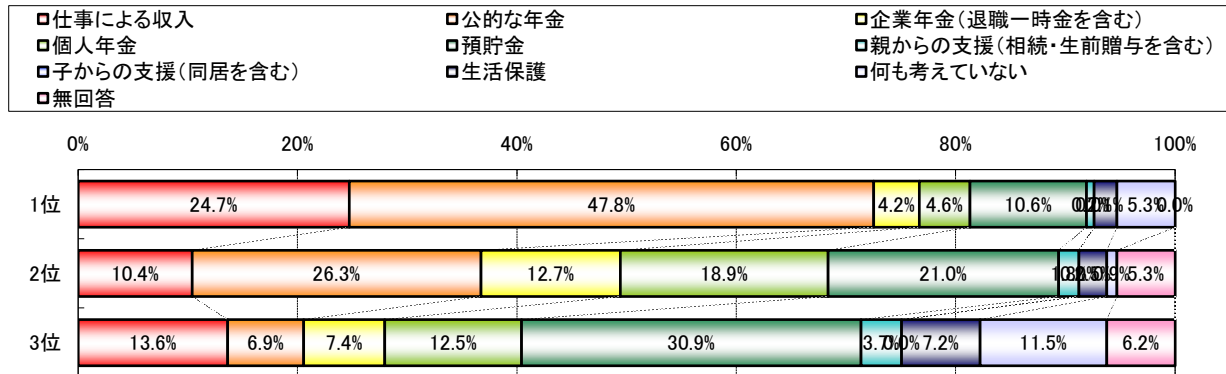
[図表31] あなたが15歳の頃、あなたのご家庭の状況はいかがでしたか。



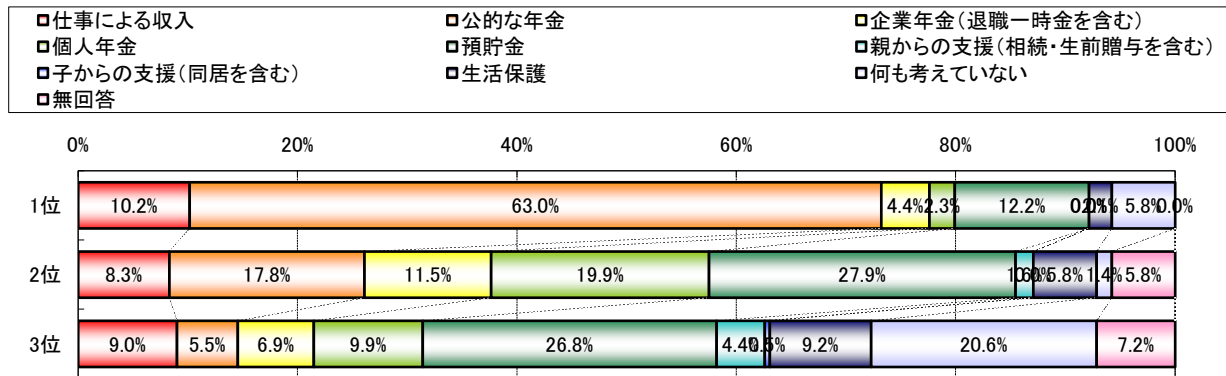
老後・介護関連

65歳以降、主な収入源として第1に想定しているのは公的年金である。とくに70歳以降、公的年金を第1の収入源と想定している人は63%に達していた。一方、60歳台後半においては仕事収入を第1の収入源と想定している人が25%いた。その割合は70歳台前半で10%、75歳以上で7%となっており、加齢に伴い低下していた。なお、70歳以降、預貯金（の取りくずし）を第1の収入源とする人が12%程度いた。

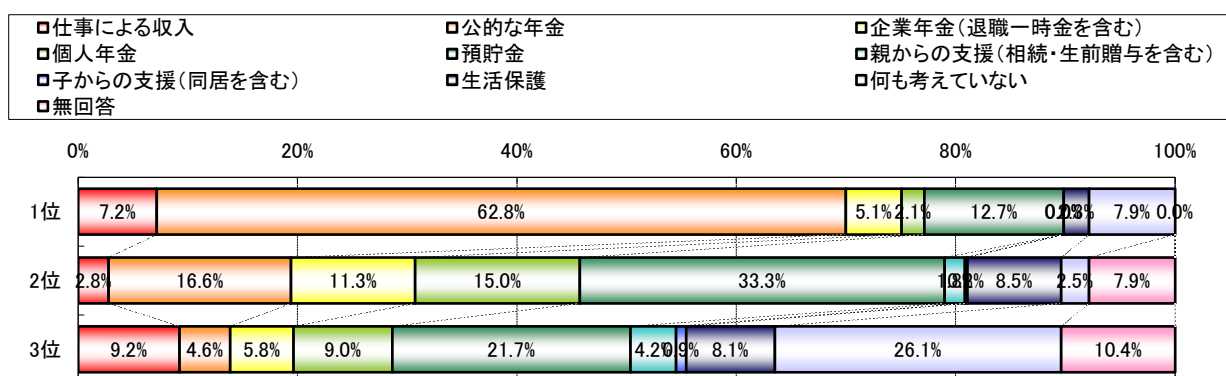
[図表32] あなたは、65～69歳の時点において、何を主な生活収入源として想定していますか。重要なものの順に上から3つ挙げてください。



[図表33] あなたは、70～74歳の時点において、何を主な生活収入源として想定していますか。重要なものの順に上から3つ挙げてください。



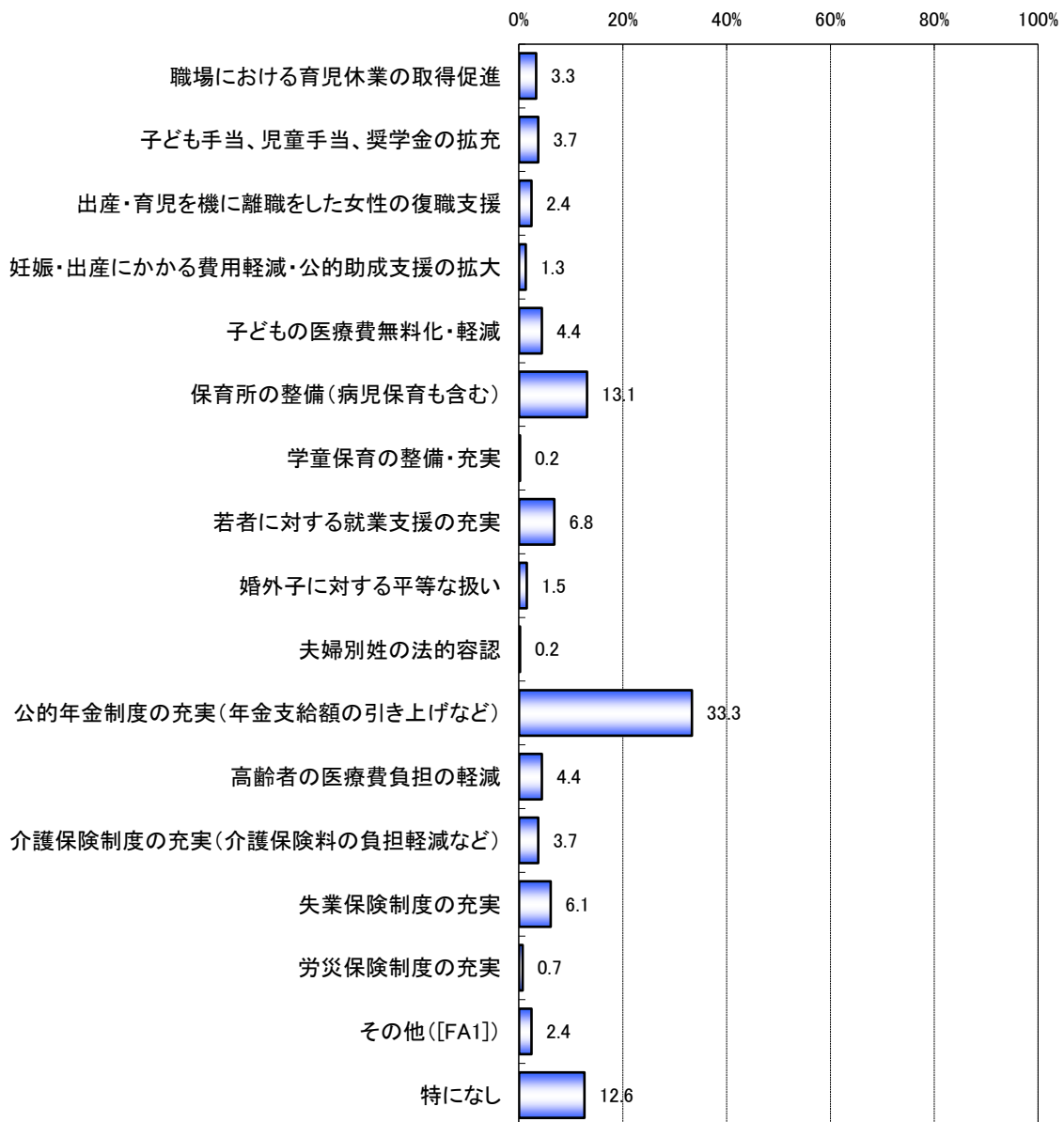
[図表34] あなたは、75歳以上の時点において、何を主な生活収入源として想定していますか。重要なものの順に上から3つ挙げてください。



行政に最も期待している社会保障施策は「公的年金の充実」(33%)であった。

[図表35] 行政が行う社会保障などの施策に関して、あなたがもっとも期待する施策を1つ選んでください。

(n=433)



老後も仕事による収入を想定している人は健康状態に恵まれている人ほど若干ながら多いが、健康状態が恵まれていない人でも、少数とはいえ仕事収入を老後における収入の柱として想定している。

図表 36 老後における仕事収入の予定と健康状態

	65～69歳の時点の予定収入	N	現在の健康状態					total %	
			よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない		
1	第1位: 仕事による収入	107	N	21	38	30	14	4	100.0
			%	19.6	35.5	28.0	13.1	3.7	
2	第2位: 仕事による収入	45	N	9	19	11	5	1	100.0
			%	20.0	42.2	24.4	11.1	2.2	
3	第3位: 仕事による収入	59	N	10	22	12	13	2	100.0
			%	16.9	37.3	20.3	22.0	3.4	
合計		211	N	40	79	53	32	7	100.0
サンプル構成(%)			%	19.0	37.4	25.1	15.2	3.3	
サンプル構成(%)		433	%	18.2	30.5	29.3	17.6	4.4	100.0

	70～74歳の時点の予定収入	N	現在の健康状態					total %	
			よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない		
1	第1位: 仕事による収入	44	N	9	15	14	5	1	100.0
			%	20.5	34.1	31.8	11.4	2.3	
2	第2位: 仕事による収入	36	N	9	11	9	6	1	100.0
			%	25.0	30.6	25.0	16.7	2.8	
3	第3位: 仕事による収入	39	N	6	16	9	6	2	100.0
			%	15.4	41.0	23.1	15.4	5.1	
合計		119	N	24	42	32	17	4	100.0
サンプル構成(%)			%	20.2	35.3	26.9	14.3	3.4	

	75歳以上の時点の予定収入	N	現在の健康状態					total %	
			よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない		
1	第1位: 仕事による収入	31	N	9	10	9	2	1	100.0
			%	29.0	32.3	29.0	6.5	3.2	
2	第2位: 仕事による収入	12	N	2	3	4	3	0	100.0
			%	16.7	25.0	33.3	25.0	0.0	
3	第3位: 仕事による収入	40	N	7	15	11	5	2	100.0
			%	17.5	37.5	27.5	12.5	5.0	
合計		83	N	18	28	24	10	3	100.0
サンプル構成(%)			%	21.7	33.7	28.9	12.0	3.6	

注) 調査対象者本人が未婚で40歳以上の中年男性。

出所) 世代間問題研究プロジェクト「くらしと仕事に関するインターネット調査」(2011年調査)

調査時点の本人年収が比較的低い人（100万円以上400万円未満）ほど老後の仕事収入を想定している割合が総じて高い。

図表 37 老後における仕事収入の予定と本人年収

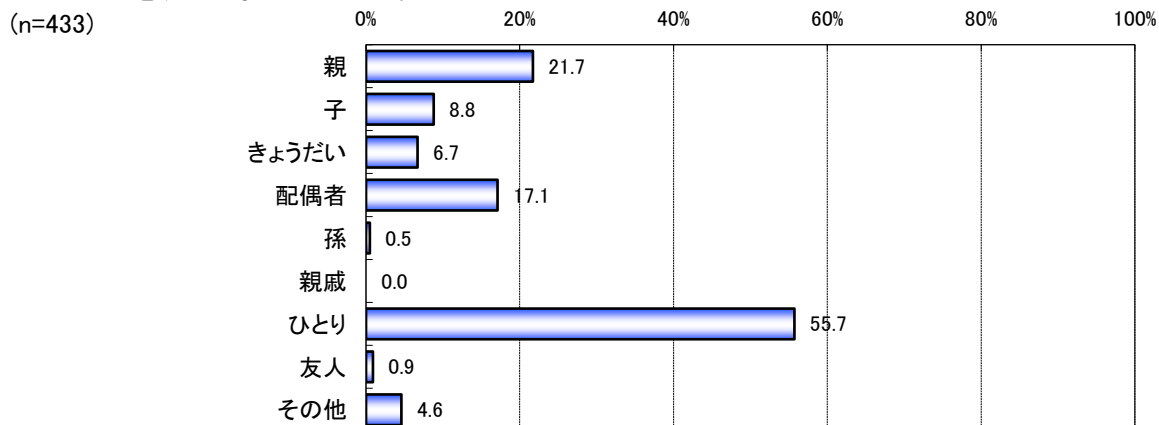
	本人年収 (万円)	サンプル数 col. %	調査時点の 本人年収	65～69歳の時点の予定収入			70～74歳の時点の予定収入			75歳以上の時点の予定収入		
				第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位
1	ゼロ	N	36	9	0	4	3	2	4	2	1	5
		%	8.3	8.4	0.0	6.8	6.8	5.6	10.3	6.5	8.3	12.5
2	1～99	N	49	10	9	4	6	6	4	4	6	4
		%	11.3	9.3	20.0	6.8	13.6	16.7	10.3	12.9	50.0	10.0
3	100～199	N	69	18	11	9	9	7	8	5	2	8
		%	15.9	16.8	24.4	15.3	20.5	19.4	20.5	16.1	16.7	20.0
4	200～299	N	54	18	5	10	5	9	4	4	2	3
		%	12.5	16.8	11.1	16.9	11.4	25.0	10.3	12.9	16.7	7.5
5	300～399	N	47	17	8	8	8	6	5	5	0	5
		%	10.9	15.9	17.8	13.6	18.2	16.7	12.8	16.1	0.0	12.5
6	400～499	N	45	9	2	9	2	1	6	1	0	5
		%	10.4	8.4	4.4	15.3	4.5	2.8	15.4	3.2	0.0	12.5
7	500～599	N	48	12	3	2	5	3	2	4	0	4
		%	11.1	11.2	6.7	3.4	11.4	8.3	5.1	12.9	0.0	10.0
8	600～699	N	29	5	4	5	2	1	2	2	0	3
		%	6.7	4.7	8.9	8.5	4.5	2.8	5.1	6.5	0.0	7.5
9	700～799	N	15	2	1	1	0	1	0	0	1	0
		%	3.5	1.9	2.2	1.7	0.0	2.8	0.0	0.0	8.3	0.0
10	800～899	N	14	1	0	1	0	0	1	0	0	0
		%	3.2	0.9	0.0	1.7	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0
11	900～999	N	8	1	0	2	1	0	0	1	0	0
		%	1.8	0.9	0.0	3.4	2.3	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0
12	1000～1099	N	8	3	1	1	2	0	1	2	0	1
		%	1.8	2.8	2.2	1.7	4.5	0.0	2.6	6.5	0.0	2.5
13	1100～1299	N	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		%	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	1300～1999	N	4	0	0	2	0	0	2	0	0	2
		%	0.9	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0	5.0
15	2000+	N	3	1	1	1	1	0	0	1	0	0
		%	0.7	0.9	2.2	1.7	2.3	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0
合計		N	433	107	45	59	44	36	39	31	12	40
		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) 調査対象者本人が未婚で40歳以上の中年男性。

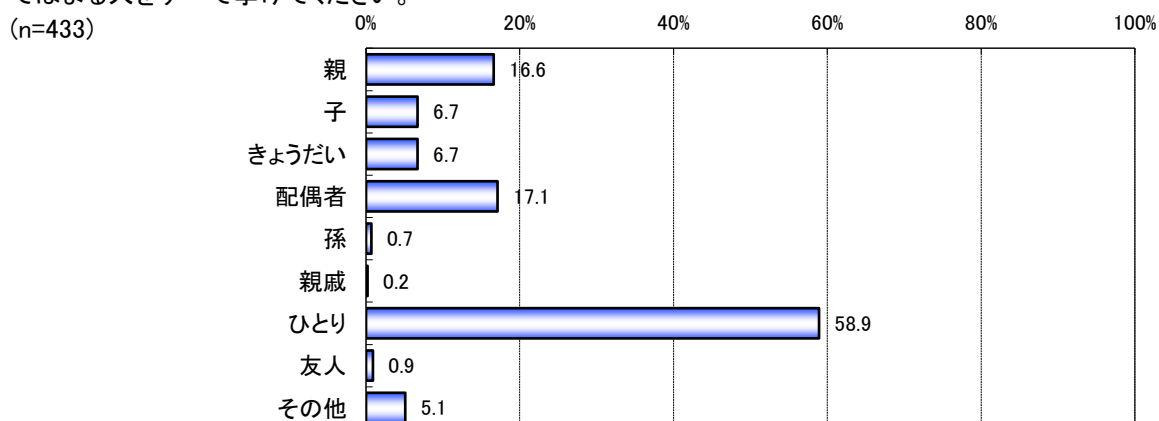
出所) 世代間問題研究プロジェクト「くらしと仕事に関するインターネット調査」(2011年調査)

65歳以降は1人暮らしを予定している人が60%前後に及び、過半数を占めていた。一方、配偶者との同居を想定している人が17%、子どもとの同居を考えている人も10%未満とはいえ若干ながらいた。さらに、75歳以上になっても親と同居していると考えている人が14%もいた。今後における結婚の可能性を考慮すると、配偶者との同居希望は実現しないおそれ強い。

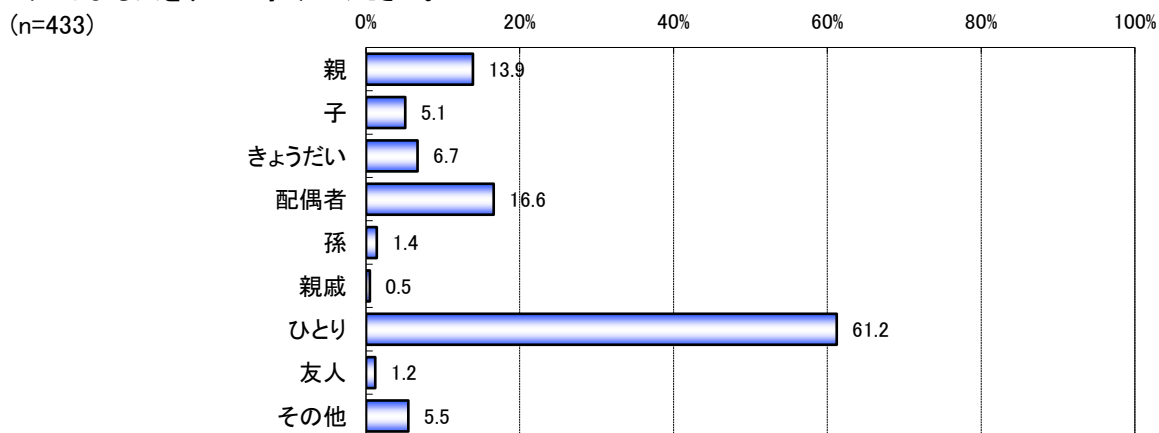
[図表38] あなたは、65～69歳時点において、どなたと一緒に住もうと考えていますか。当てはまる人をすべて挙げてください。



[図表39] あなたは、70～74歳時点において、どなたと一緒に住もうと考えていますか。当てはまる人をすべて挙げてください。



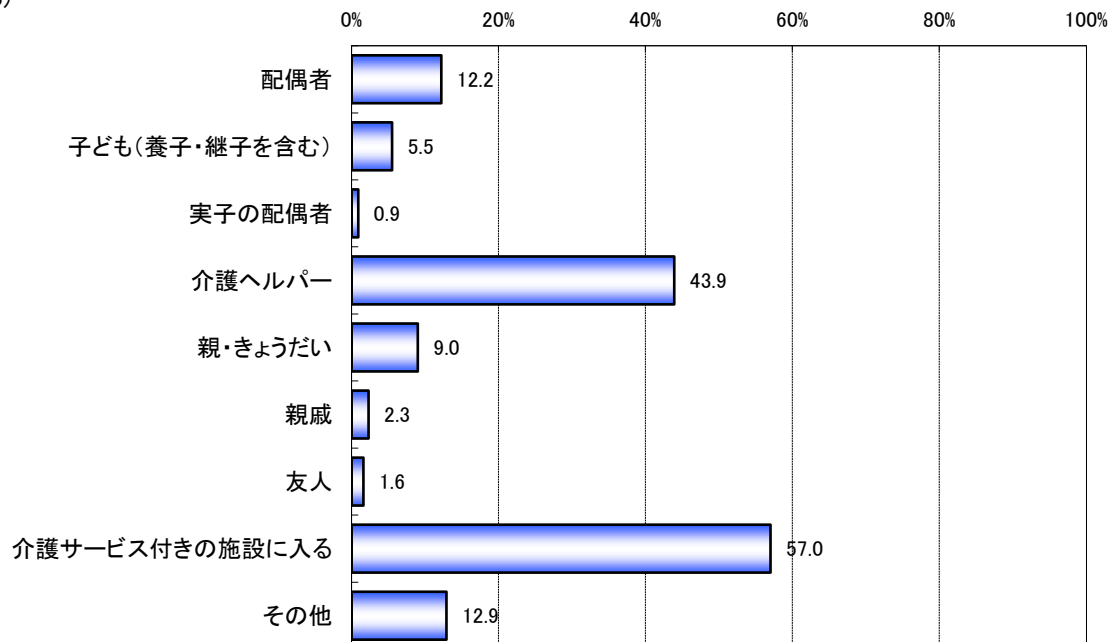
[図表40] あなたは、75歳以上の時点において、どなたと一緒に住もうと考えていますか。当てはまる人をすべて挙げてください。



要介護状態となったとき、施設に入所することを想定している人が57%であり、最も多かった。一方、自宅介護などで介護ヘルパーに頼るといった人が44%いた。さらに、配偶者に介護をしてもらおうと回答した人が12%いた。

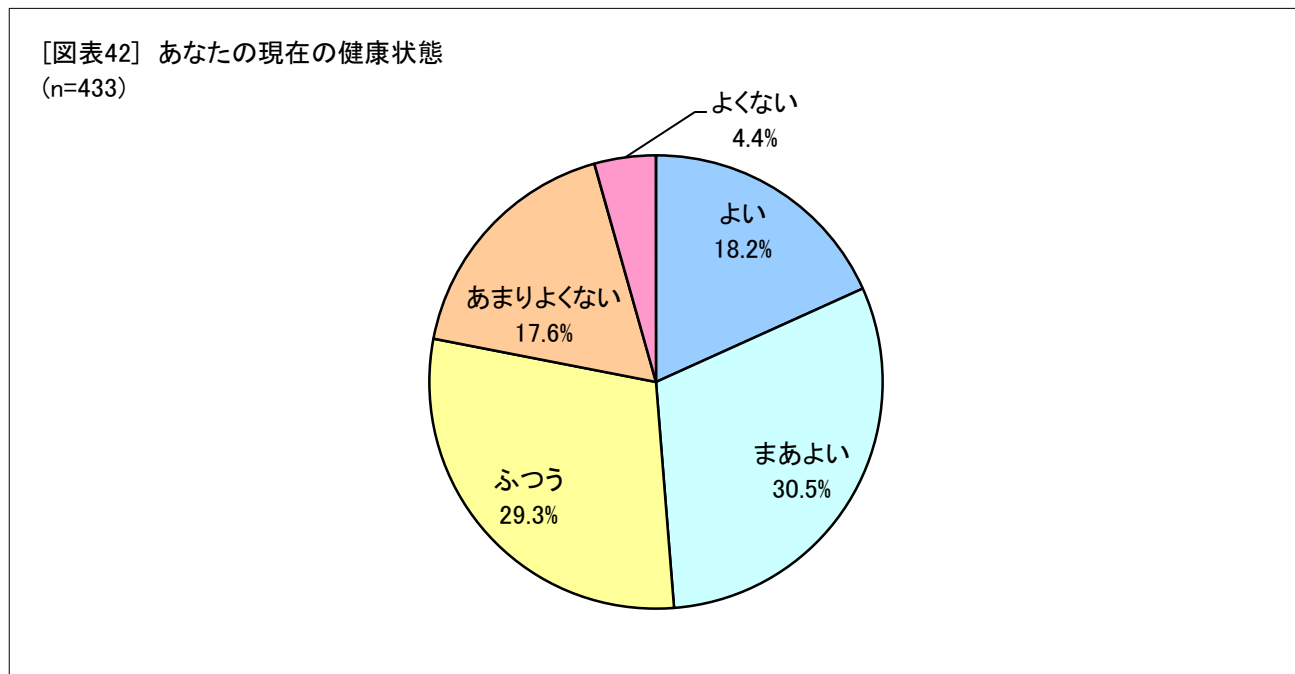
[図表41] あなたは、要介護状態になったとき、どなたに介護してもらおうと考えていますか。当てはまる人をすべて挙げてください。

(n=433)

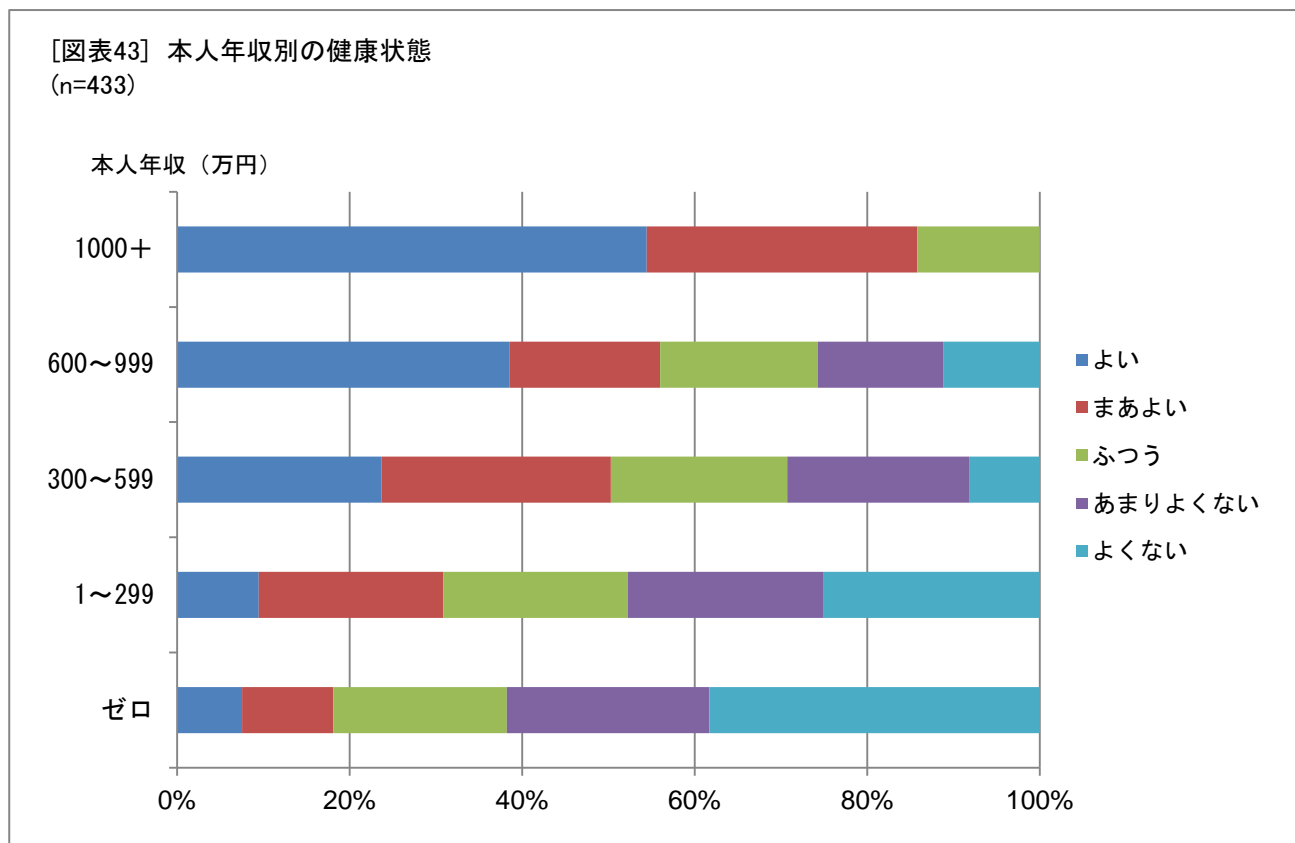


健康・余暇・主観的厚生関連

現在の健康状態が「あまりよくない」人が18%、「よくない」人が4%いた。既婚中年男性の回答は、それぞれ11%、2.2%であったので、未婚者の方が健康上の問題を抱えている人が多かった^{4,5,6}。

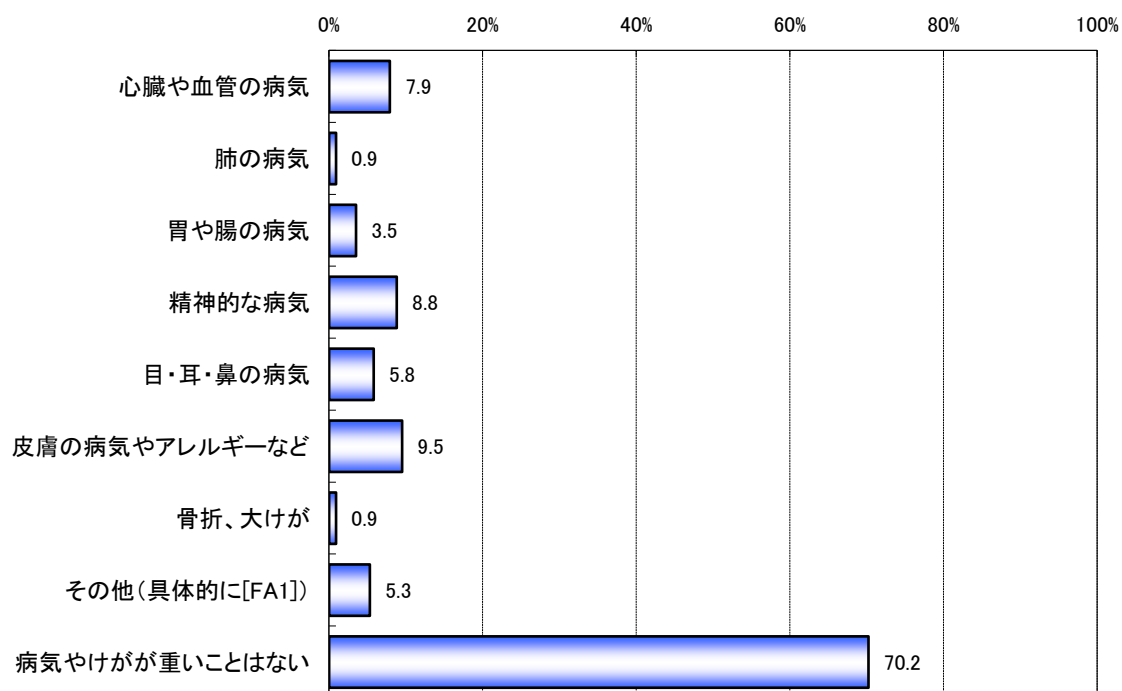


本人年収と健康状態は正相関の関係にある。すなわち、高所得者になるほど健康状態がよいという回答者割合が高い一方、健康状態がよくない場合、低収入や年収ゼロとなる人が多い。



病状が重く、それが就業や結婚等に差しさわりのある人はサンプル全体の30%を占めていた。その内訳は、アレルギーが10%、精神の病い9%、循環器系疾患8%等となっていた。

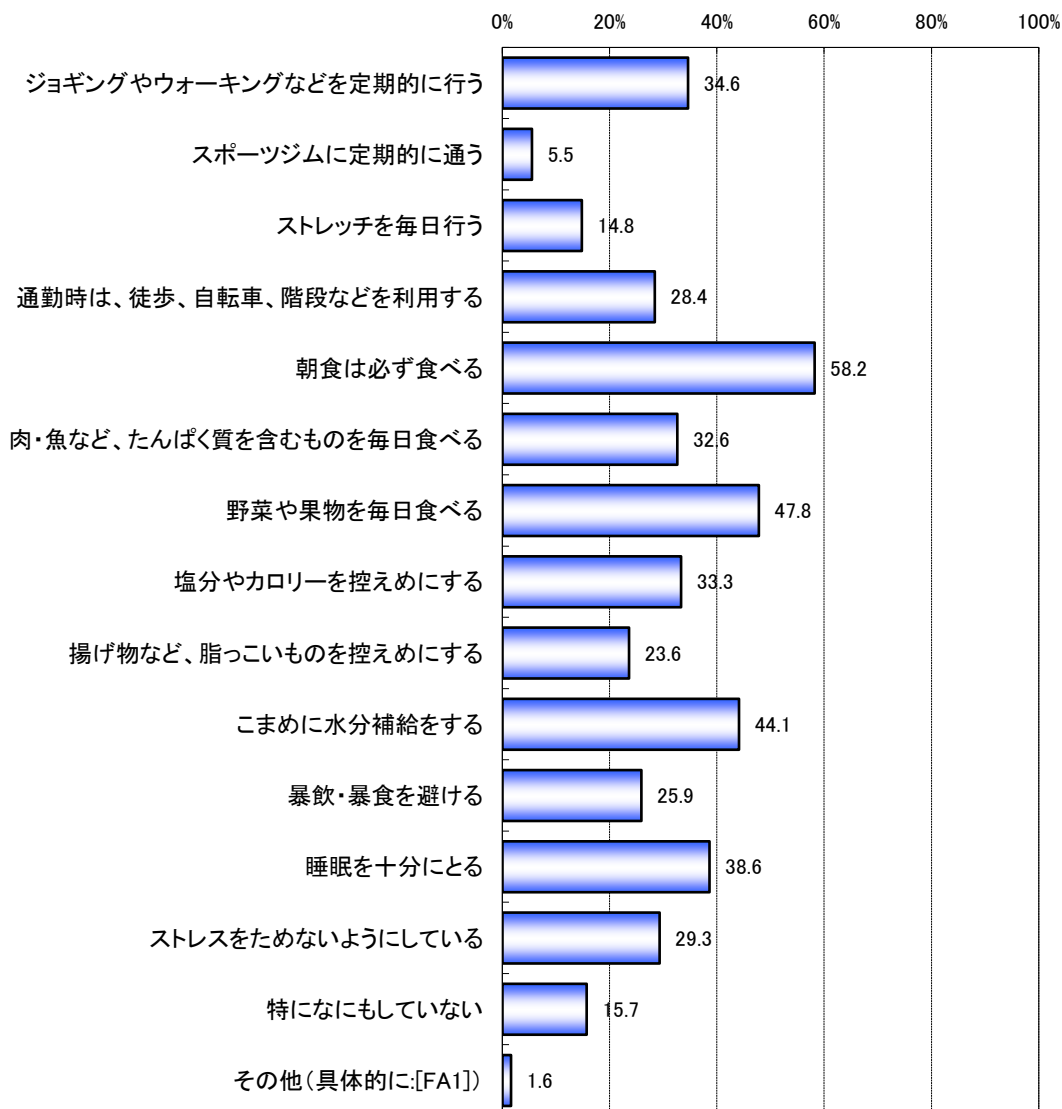
[図表44] あなたご自身、現在、次に掲げるいずれかの病気の症状が重く、あなたの就業や結婚、子育てに差しさわりがありますか。
(n=433)



健康の維持・管理状況は図表 45 のとおりである。朝食を必ず摂る人は 58%、睡眠を十分にとる人は 39%であった。

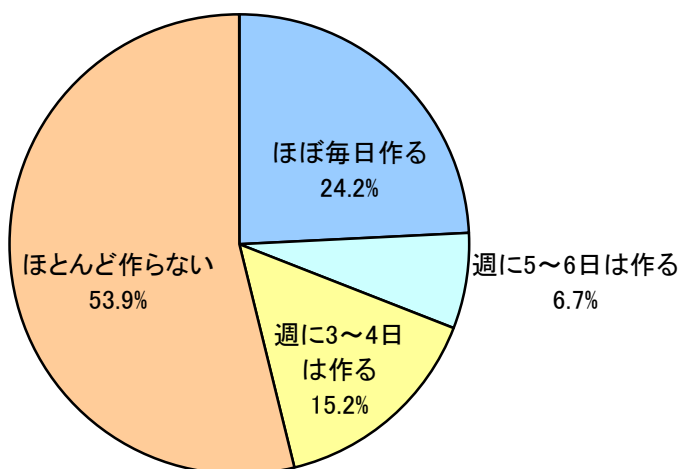
[図表45] あなたは成人病予防や健康の維持・管理のために次のようなことを行っていますか。(複数回答可)

(n=433)

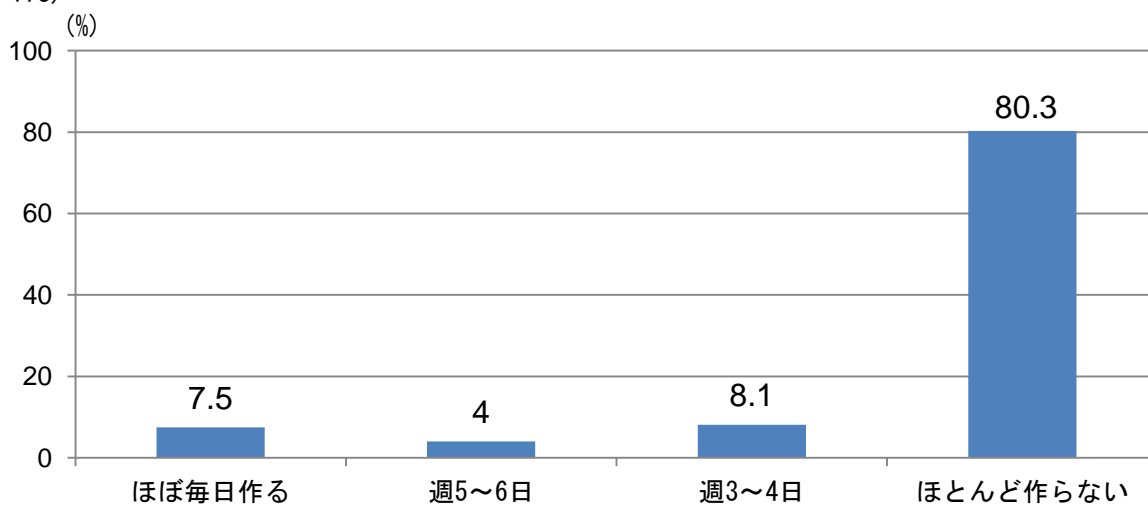


自分でほとんど夕食を作らない人が回答者の54%を占めていた。とくに、母親と同居中の場合、その回答者割合は80%に達していた。

[図表46] あなたは、夕食を自分で作りますか。
(n=433)

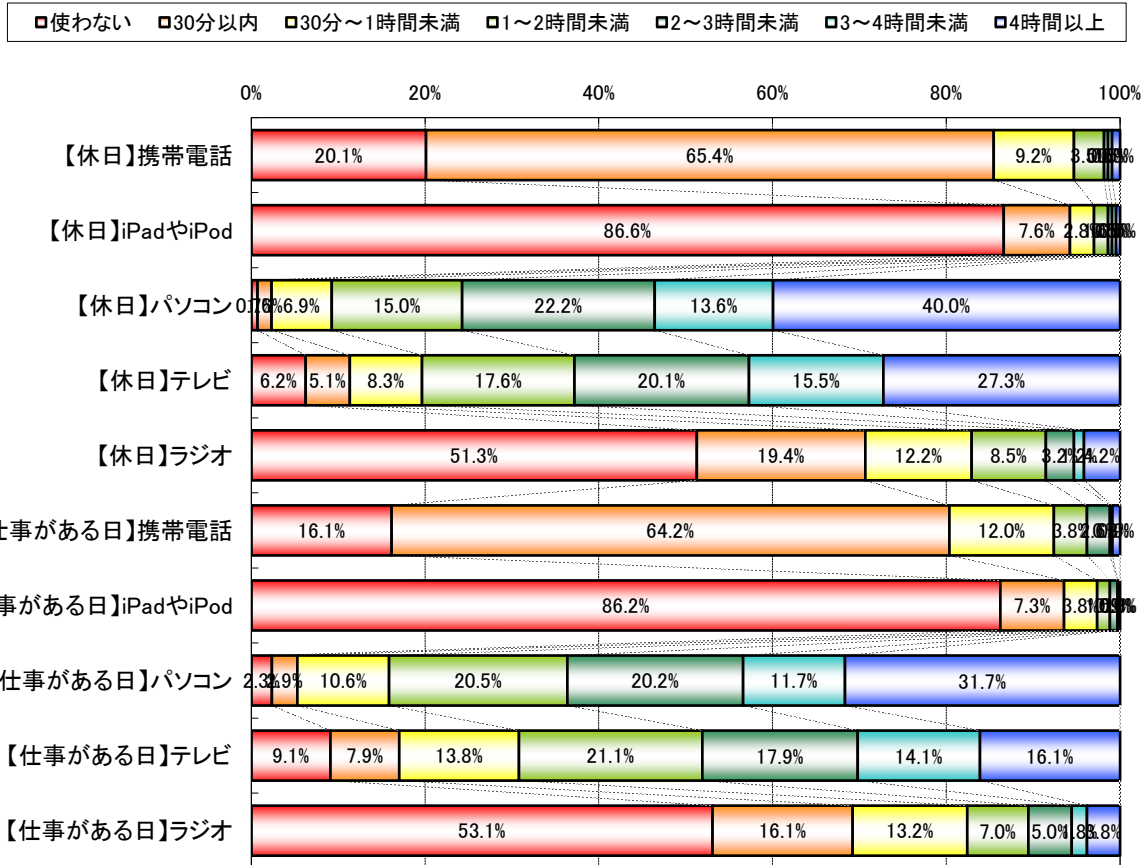


[図表47] 母と同居中の未婚男性: 夕食を自分で作るか
(n=173)



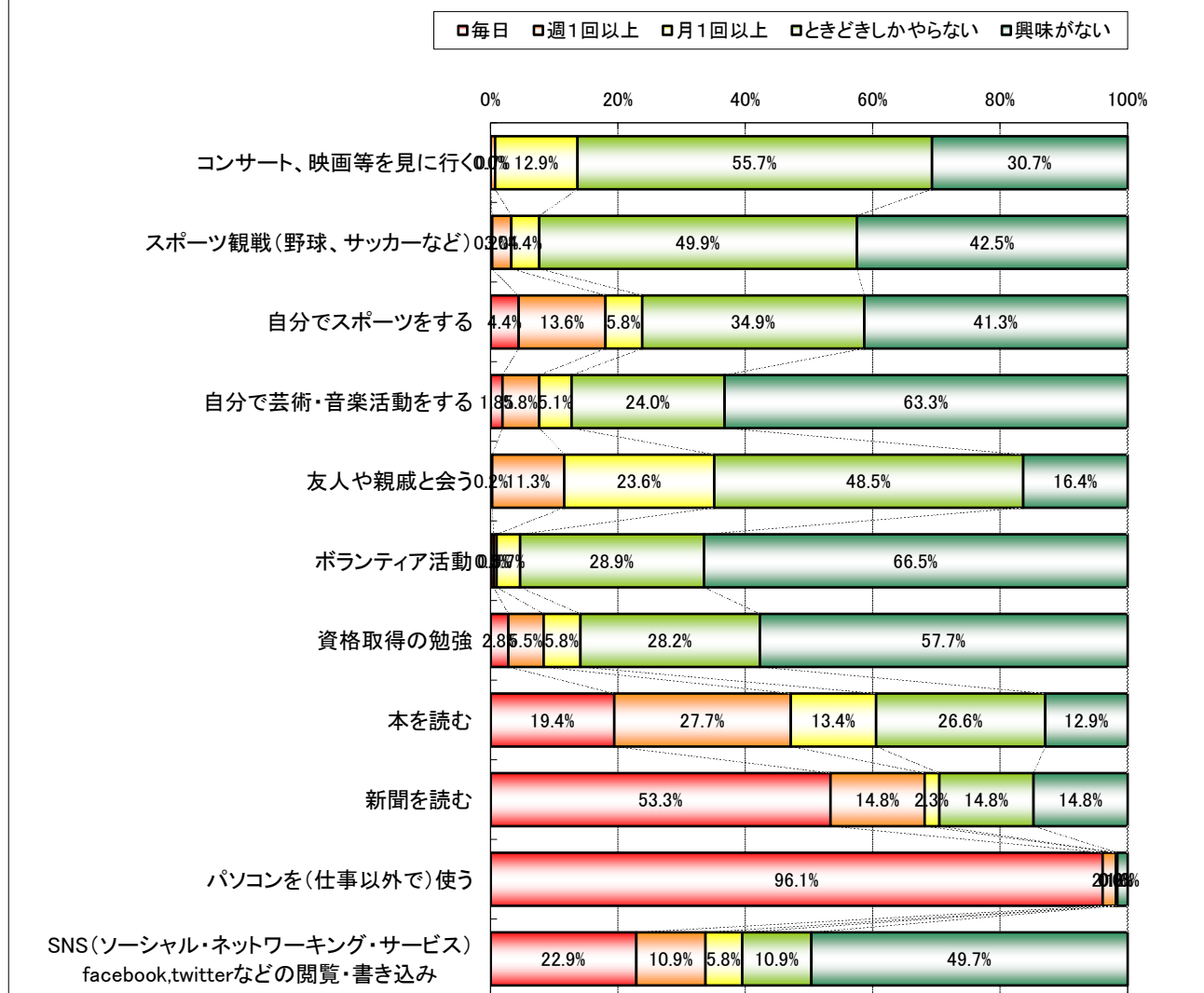
情報・通信メディア別の1日あたり利用時間は図表48のとおりであり、その中では休日のパソコン利用4時間以上40%、休日のテレビ視聴4時間以上27%、の2つが目立っていた。

[図表48] あなたは、現在、以下の情報・通信メディアを、毎日、どのくらい利用・視聴していますか。



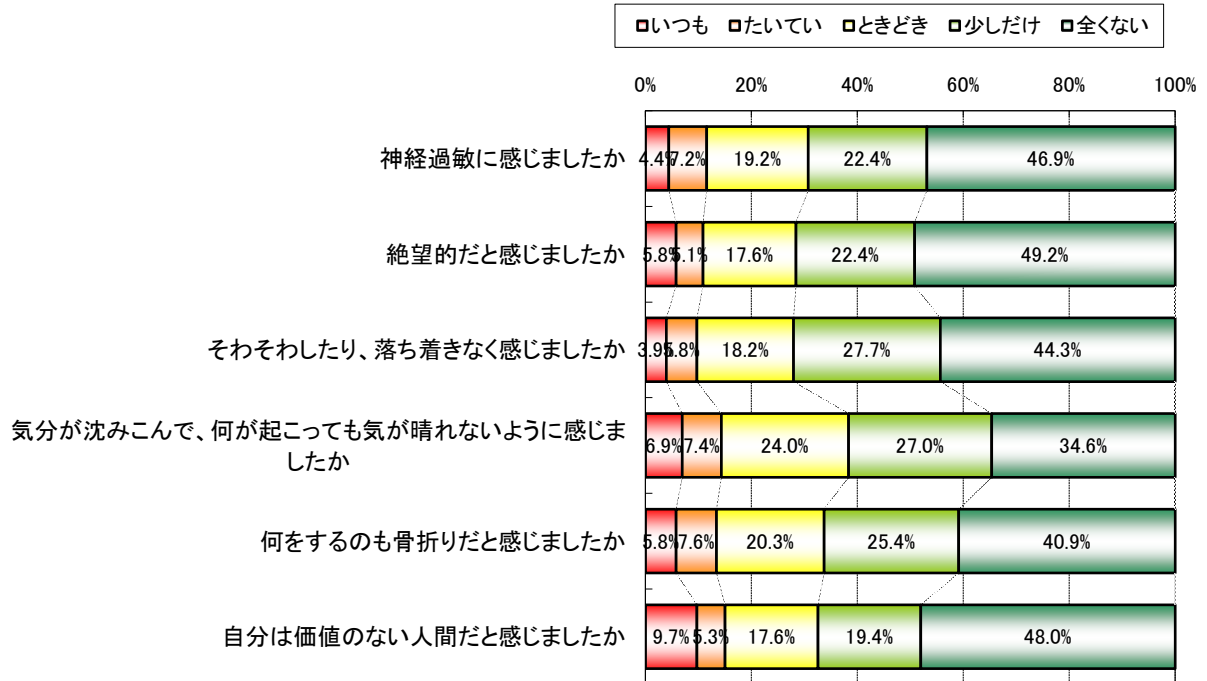
余暇時間の過ごし方は図表 49 のとおりである。仕事以外でもパソコンをほぼ毎日使っている一方、自宅外での余暇活動は、きわめて少ない。さらに、毎日、新聞を読む人が 53%、週 1 回以上の間隔で本を読む人 47%（毎日、読む人を含む）、SNS を利用する人 34%等となっていた。

【図表49】 あなたは、以下の活動をどのくらい行いますか。



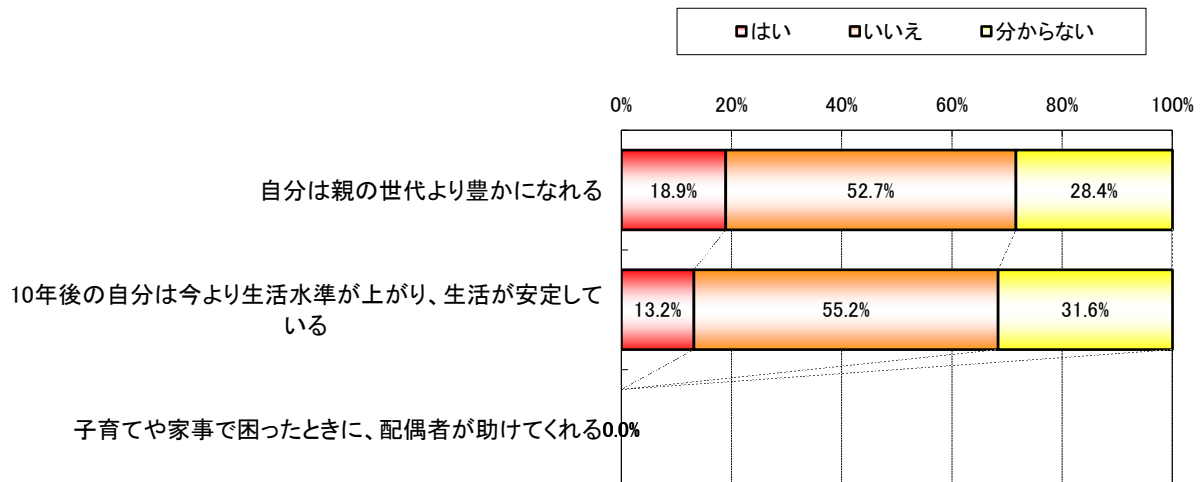
自分は価値のない人間だと、いつも感じている人が10%、たいてい感じている人が5%、ときどき感じている人が18%いた。一方、既婚中年男性の場合、それらの割合は1.8%、3.2%、9.5%であった。さらに、「気分が沈みこみ、気が晴れない」という人も未婚者の方が既婚者より多かった。

[図表50] 過去1ヵ月の間、どのくらいの頻度で次のことがありましたか。
(n=433)



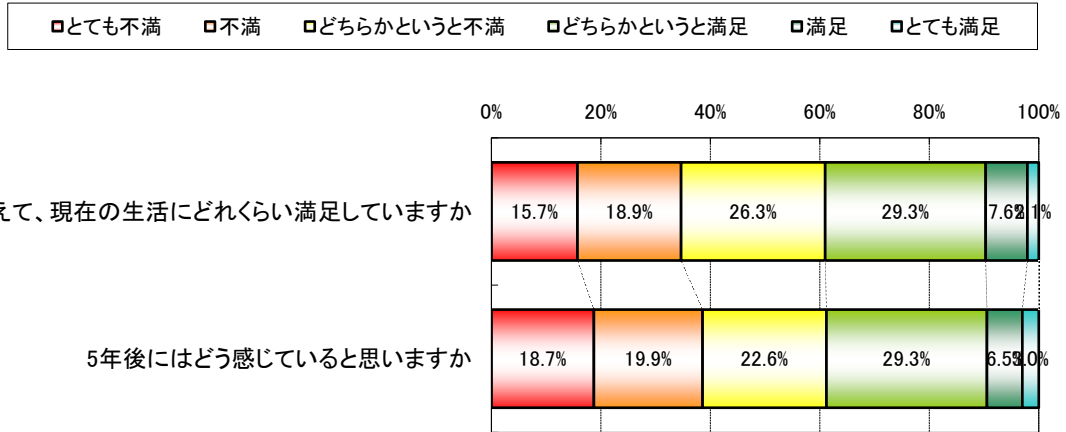
親の世代より豊かになれないと53%の人が回答していた。さらに、10年後は今より生活水準が下がり、生活が不安定になっているとした人も55%いた。

[図表51] 次の質問についてどのように思いますか。
(n=433)



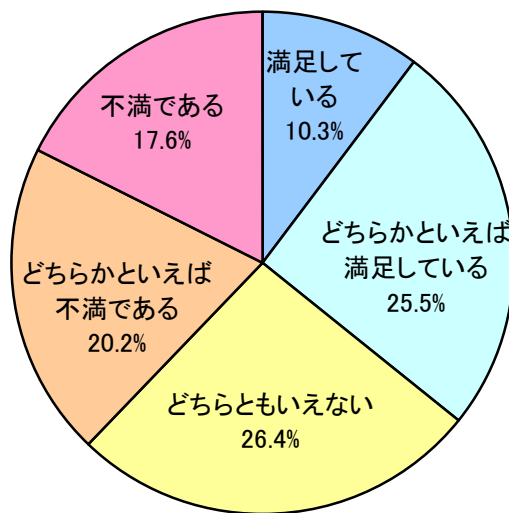
現在の生活に多かれ少なかれ不満のある未婚者が60%強に達していた。一方、現時点で生活に不満のある既婚中年男性は37%にとどまっていた。それらのサンプル割合は5年後の生活満足度についても、ほとんど変わりがなかった。

【図表52】 あなたの生活満足度
(n=433)



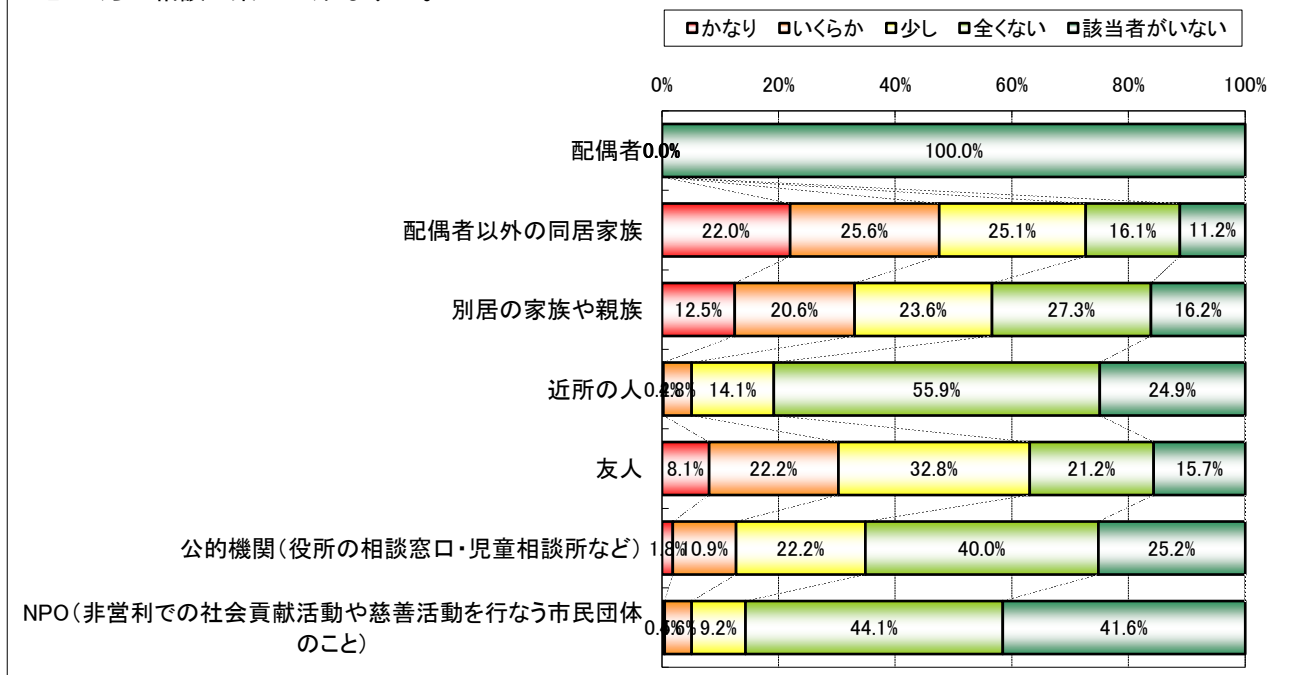
現在の仕事に不満のある人はサンプル全体の38%であった（どちらかという不満、という人を含む）。

【図表53】 あなたは、現在の仕事の内容にどのくらい満足していますか。
(n=341)

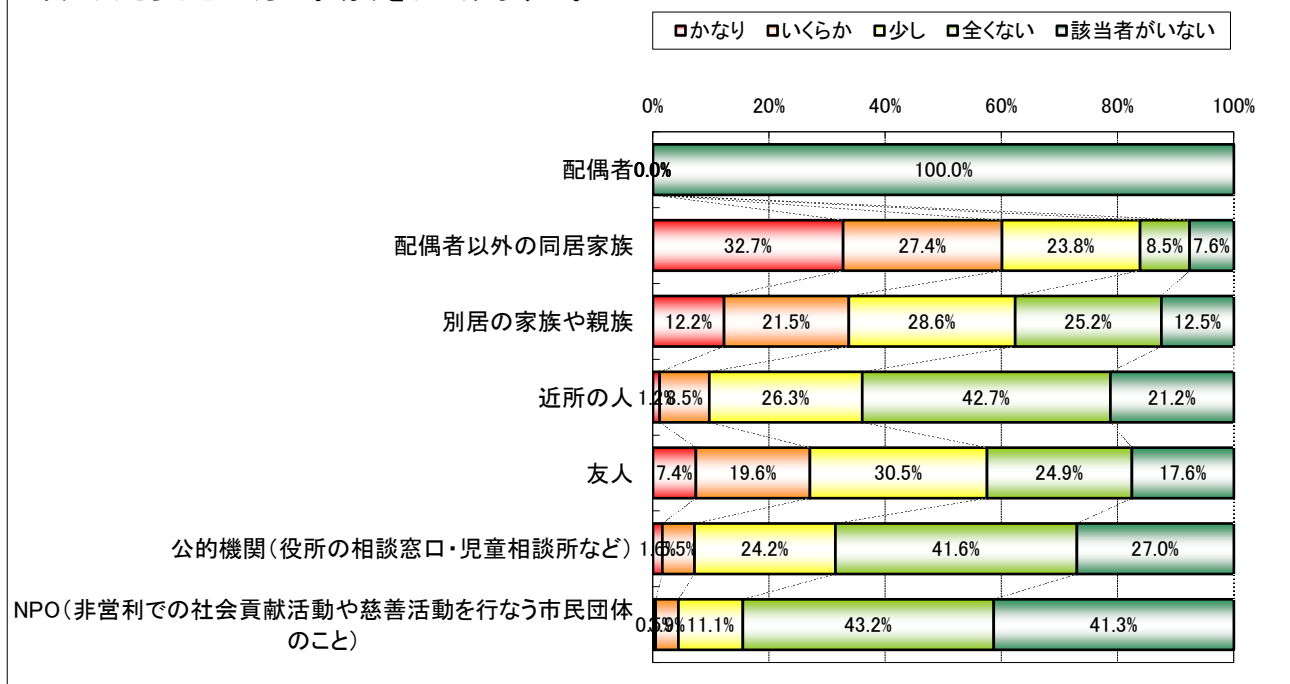


心配ごとや困りごとがあるときに、かなりのレベルで相談に乗ってくれる人が誰かという質問に対して、それが同居家族であると回答した人は22%、別居の家族・親族と回答した人13%、友人と回答した人8%であった。他方、そのようなときに、80%強が近所には相談に乗ってくれる人がいないと回答していた。このような回答率は「日頃の生活におけるちょっとした手助け」についても大差がなかった。

[図表54] 心配ごとや困りごとがあるとき、次の人たちはどのくらい相談に乗ってくれますか。



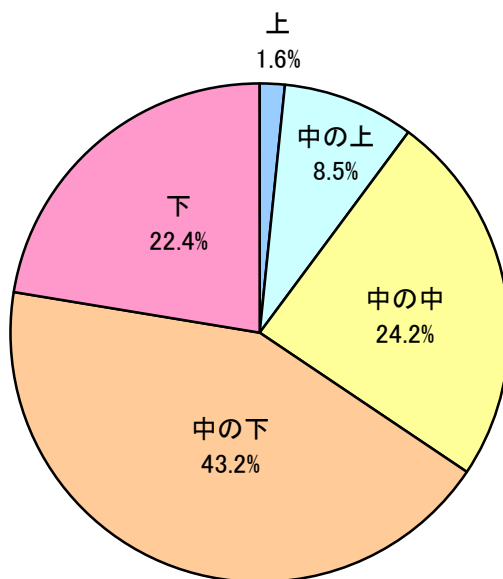
[図表55] 日頃の生活でちょっとした手助けが必要なとき、次の人たちはどのくらい手助けをしてくれますか。



帰属階層意識については「下」が22%、「中の下」が43%となっており、双方あわせて65%に達していた。一方、既婚中年男性の場合、「下」は7.8%、「中の下」は26%に過ぎなかった。

[図表56] 仮に社会全体を上から順に5つの層に分けるとすれば、あなた自身は、どこに入るとお考えですか。

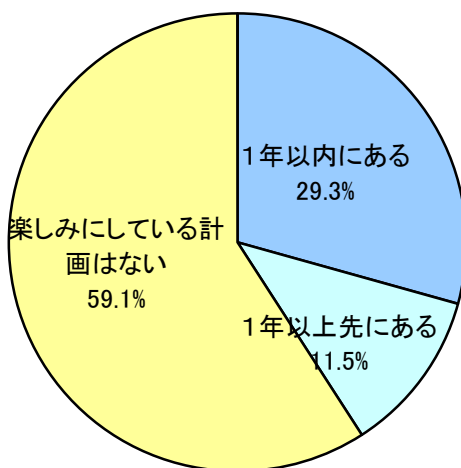
(n=433)



今後、楽しみにしている計画はない、と59%の未婚中年男性が回答していた。他方、既婚中年男性で「今後、楽しみにしている計画はない」と回答したのは44%であった。

[図表57] あなたはこれから先に、何か楽しみにしている計画はありますか。

(n=433)

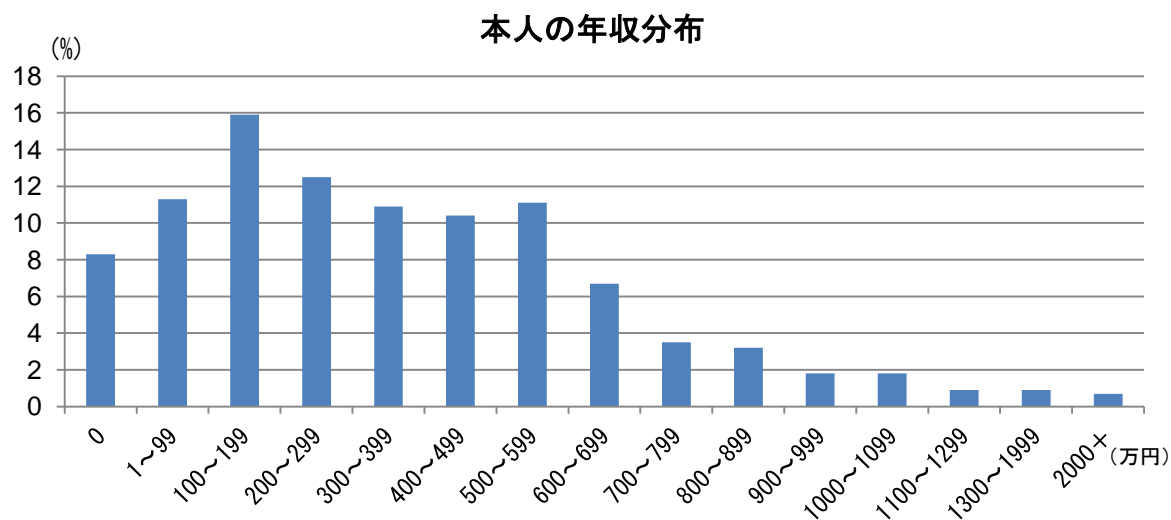


所得・資産保有関係

本人年収（2010年分）の最頻値は100万円台（100万円きざみ）、中央値310万円、平均値391万円であった。さらに、100万円未満が20%、200万円未満36%、300万円未満48%、500万円以上が31%となっていた。

[図表58] あなたご自身の昨年の年間収入（税込み）はどのくらいですか（株式配当、不動産収入などすべての収入を含む）。

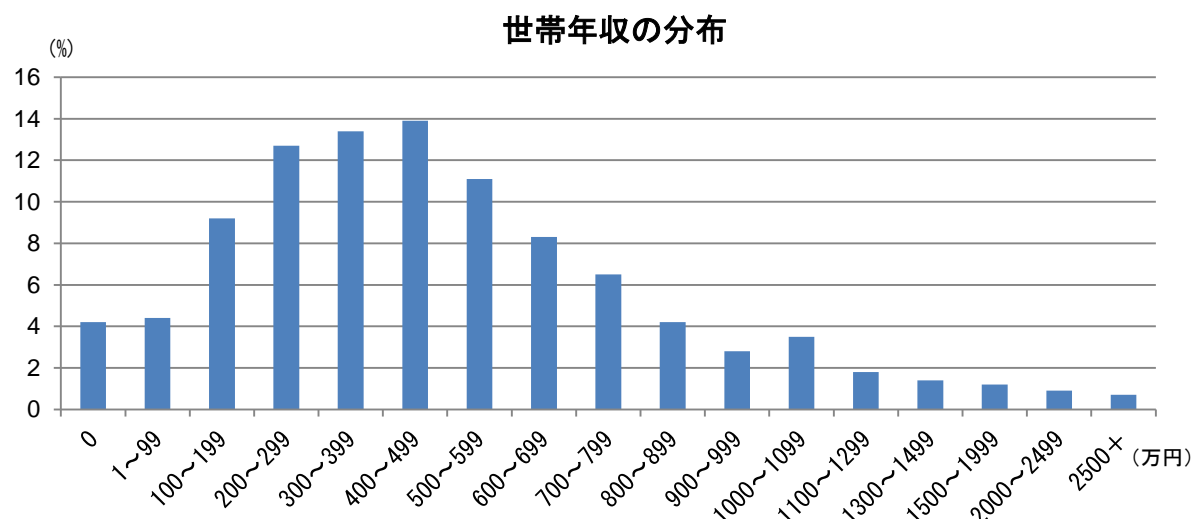
(n=433)



世帯年収（2010年分）の分布は図表59のとおりであり、最頻値は400万円台（100万円きざみ）、中央値425万円、平均値509万円であった。そして、300万円未満の世帯が31%あった一方、500万円以上の世帯が42%に及んでいた。

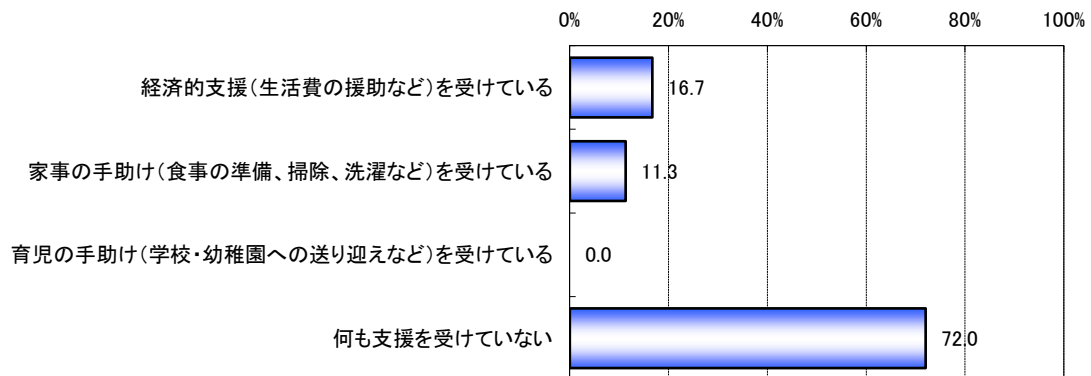
[図表59] あなたの世帯全体での昨年1年間の税込みの年収は、おおよそいくらでしたか（年金、金融資産、不動産投資などで得た収入[利子、配当、地代、家賃]などすべてを含む）。

(n=433)

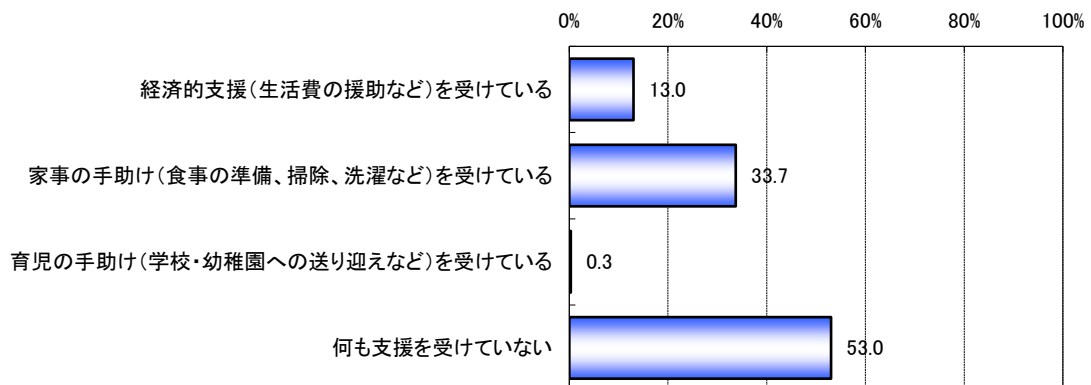


現在、父親から経済的支援を受けている人は17%（父親存命中の人に限ると30%）、家事を手助けしてもらっている人11%（同、21%）であった。一方、母親から経済的支援を受けている人は13%（母親存命中の人に限ると20%）、家事を手助けしてもらっている人34%（同、59%）となっていた。父親から経済的支援を受けている人や母親から家事支援を受けている人が少ない。

〔図表60〕 あなたは、現在、父親からどのような支援を受けていますか。
(n=275)



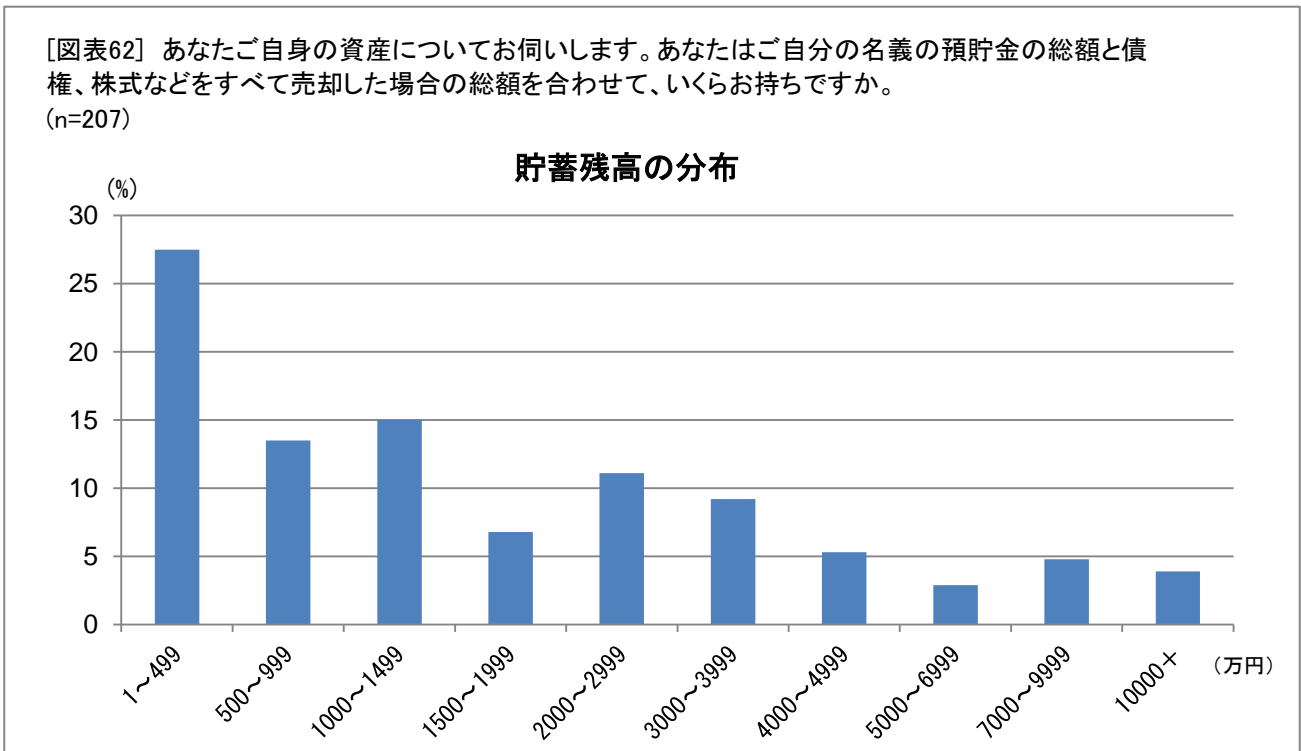
〔図表61〕 あなたは、現在、母親からどのような支援を受けていますか。
(n=368)



貯蓄残高については無記入の人が 52%に達し、半数を超えていた。回答者のみに限定すると、最頻値は 500 万円未満（500 万円きざみ）、中央値 1000 万円、平均値 1800 万円弱であった。なお、3000 万円以上の人が 26%いた。

【図表62】 あなたご自身の資産についてお伺いします。あなたはご自分の名義の預貯金の総額と債権、株式などをすべて売却した場合の総額を合わせて、いくらお持ちですか。

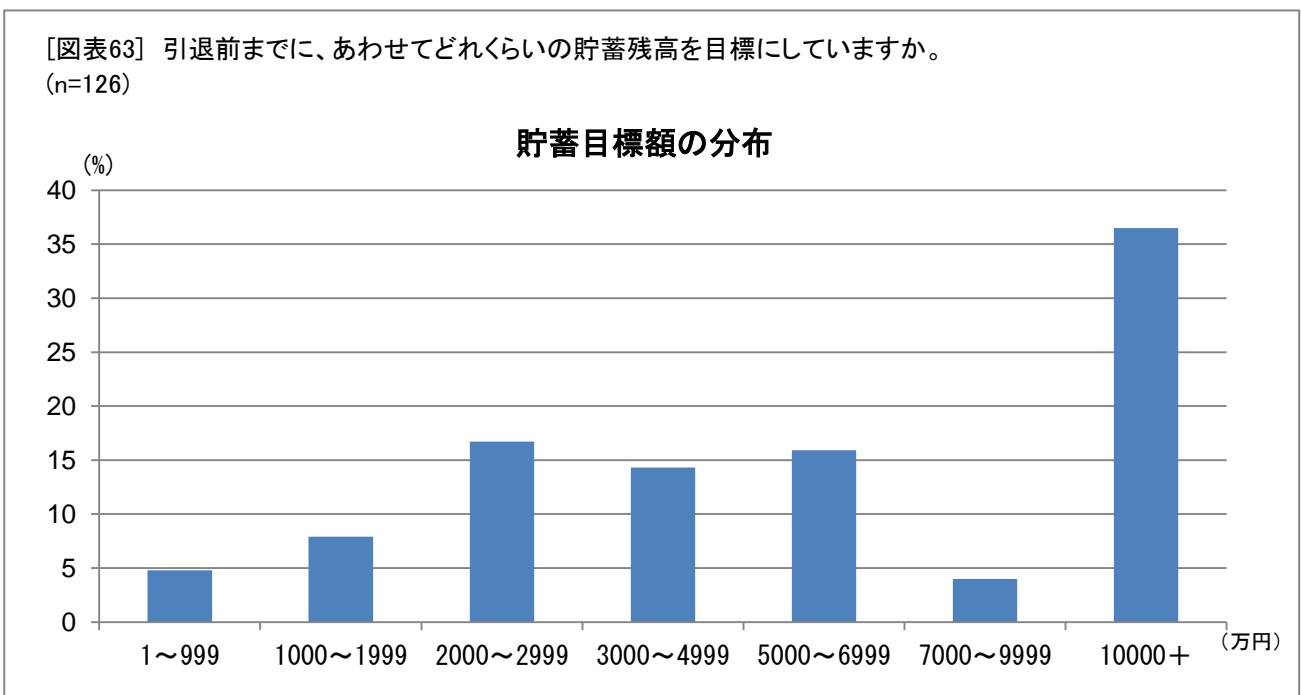
(n=207)



引退時の貯蓄目標額についても無記入が 71%に及び、かなり多かった。回答者のみに限定すると、1 億円 23%、2000 万円台 17%の 2 ピークとなっていた。その分布は 3000 万円未満が 29%、5000 万円以上 56%、1 億円以上 36%であった。

【図表63】 引退前までに、あわせてどれくらいの貯蓄残高を目標にしていますか。

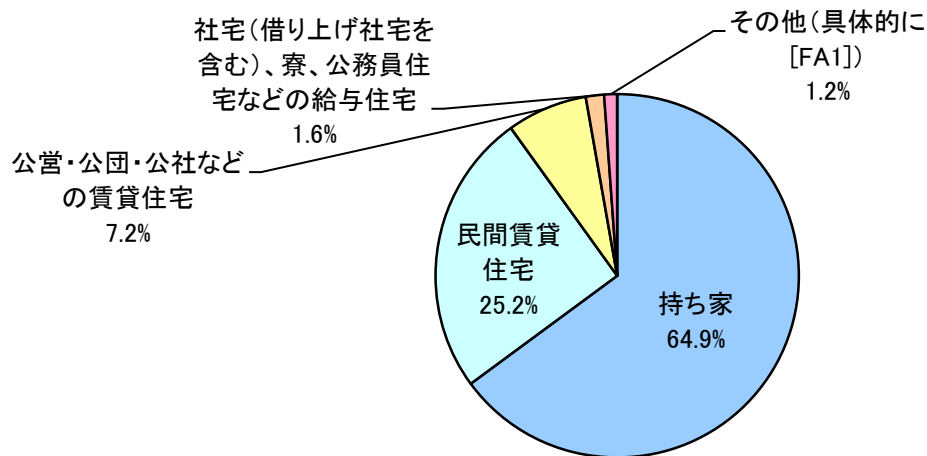
(n=126)



住宅・地域関連

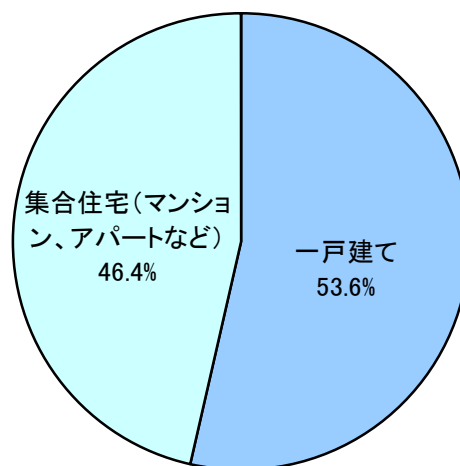
持家率は65%であった。

[図表64] 現在お住まいの住居は、次のどれになりますか。
(n=433)



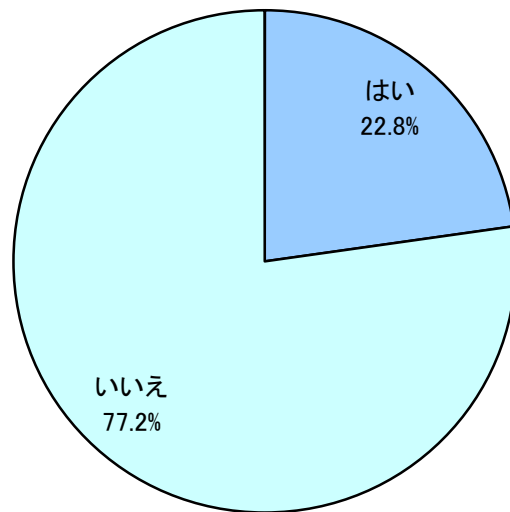
一戸建ての住宅に住んでいる人のサンプル割合は54%となっていた。

[図表65] 現在お住まいの住居は、一戸建てですか、集合住宅ですか。
(n=433)



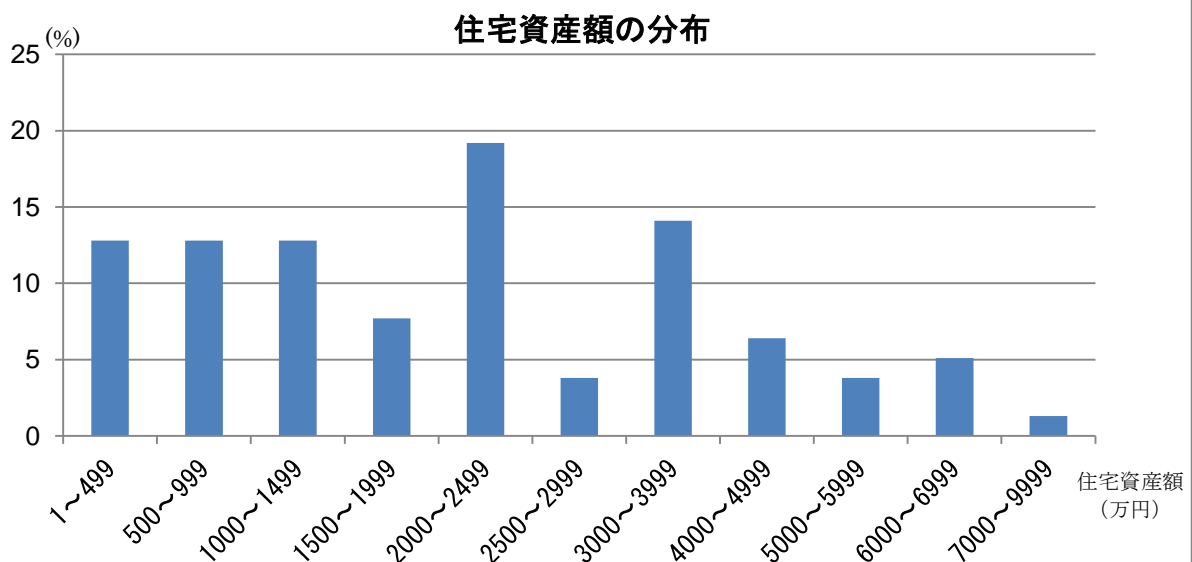
持家の23%は相続・贈与で取得したものである。

[図表66] 現在お住まいの家は相続や贈与で取得しましたか。
(n=281)



土地込みの住宅資産額については無回答がサンプルの72%を占めていた。回答者のみに限定すると、その中央値は2000万円、平均値2167万円であった。また、その分布は1000万円未満が26%、3000万円以上が31%、5000万円以上が10%となっていた。

[図表 67] 仮に、今お住まいの物件(土地を含む)をただちに売ると、
いくらで売れると思いますか。
(n=78)

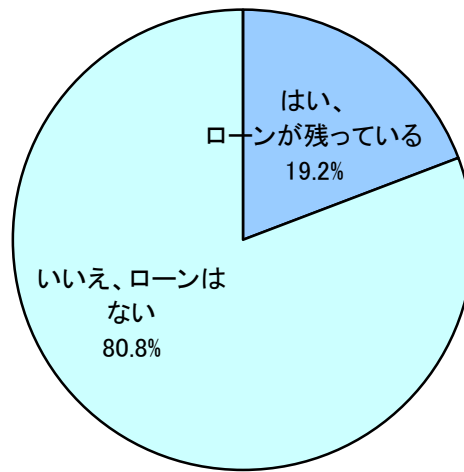


注) 住宅資産1億円以上の5サンプルをアウトライヤーとして除去し、集計した。

持家所有者の19%は住宅ローンが残っていた。

[図表68] 現在お住まいの家に関する質問です。現在お住まいの家は住宅ローンが残っていますか。

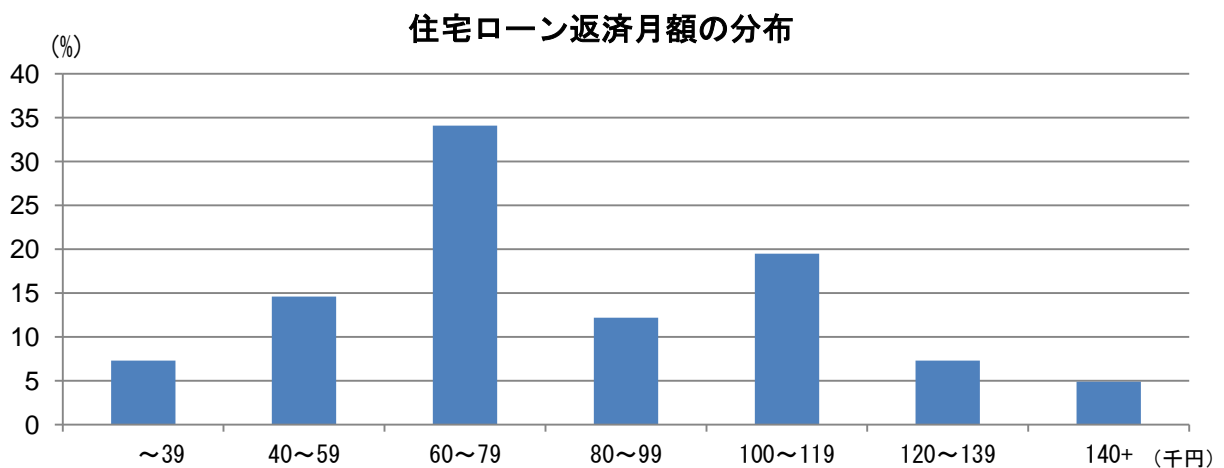
(n=281)



住宅ローンの返済月額は6万円以上8万円未満の人が約3分の1を占め、最も多かった。月額10万円以上の返済者も30%強に及んでいた。

[図表69] 利息を含めた月々のローンの支払いはいくらですか。

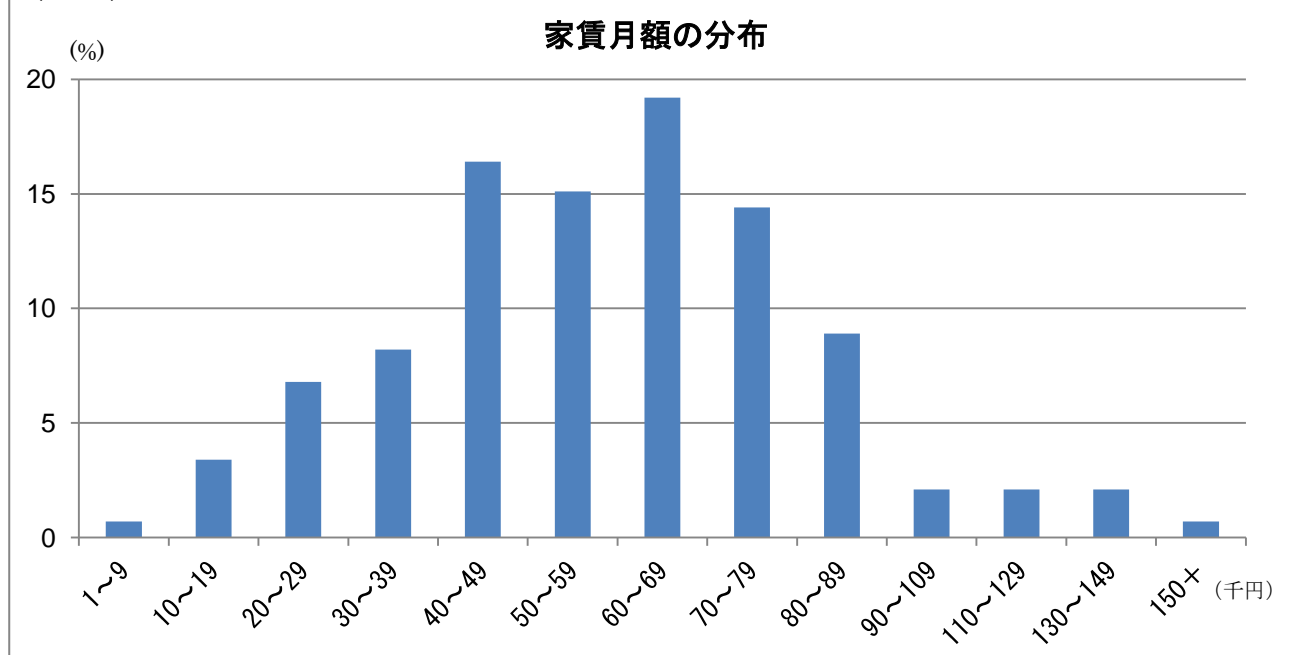
(n=54)



賃貸住宅に係る家賃月額（共益費・駐車場代を含む）は平均で5万9000円であり、4万円以上7万円未満の人が半数を占めていた。

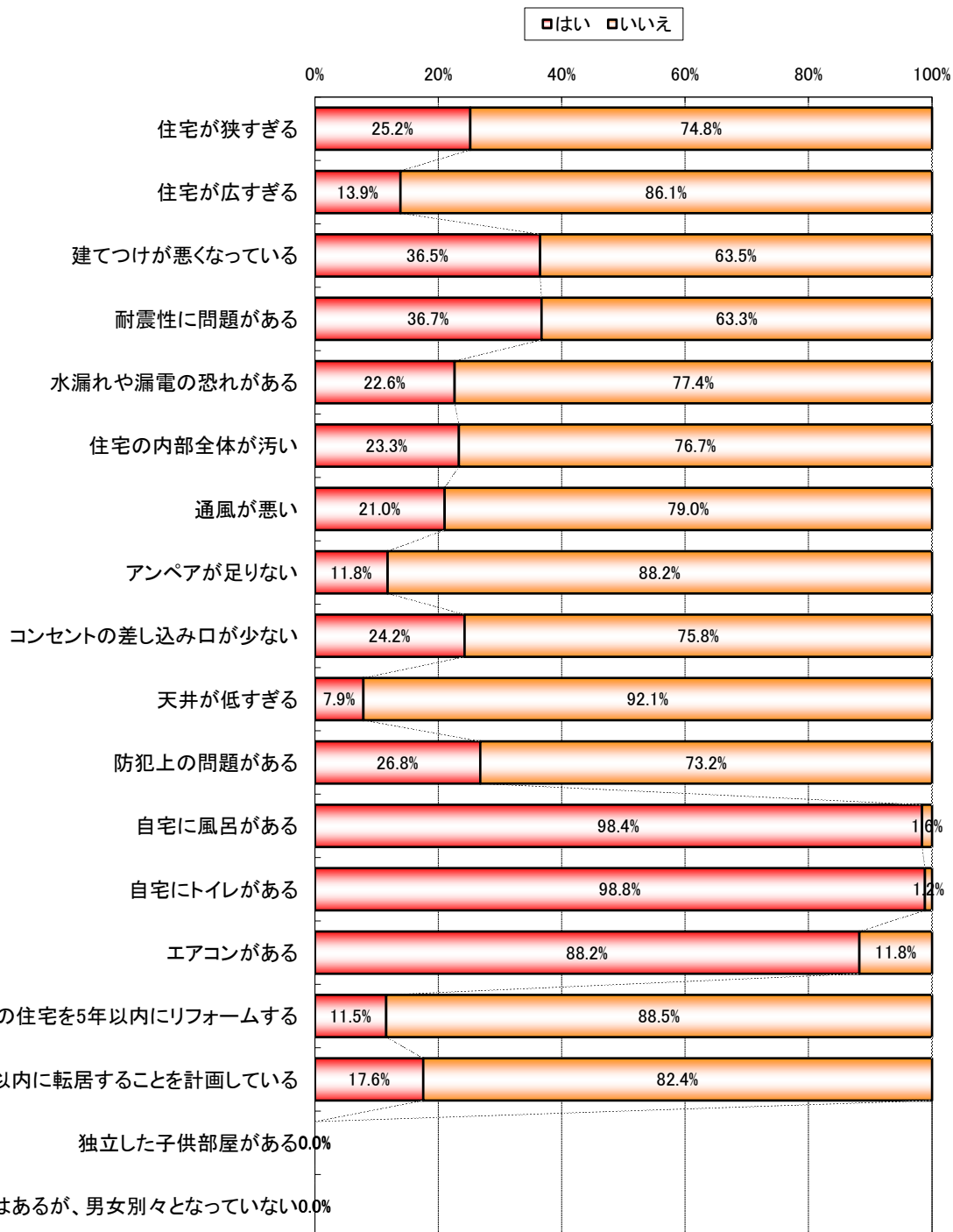
[図表 70] 現在お住まいの住宅の、月々の家賃はいくらですか。

(n=152)



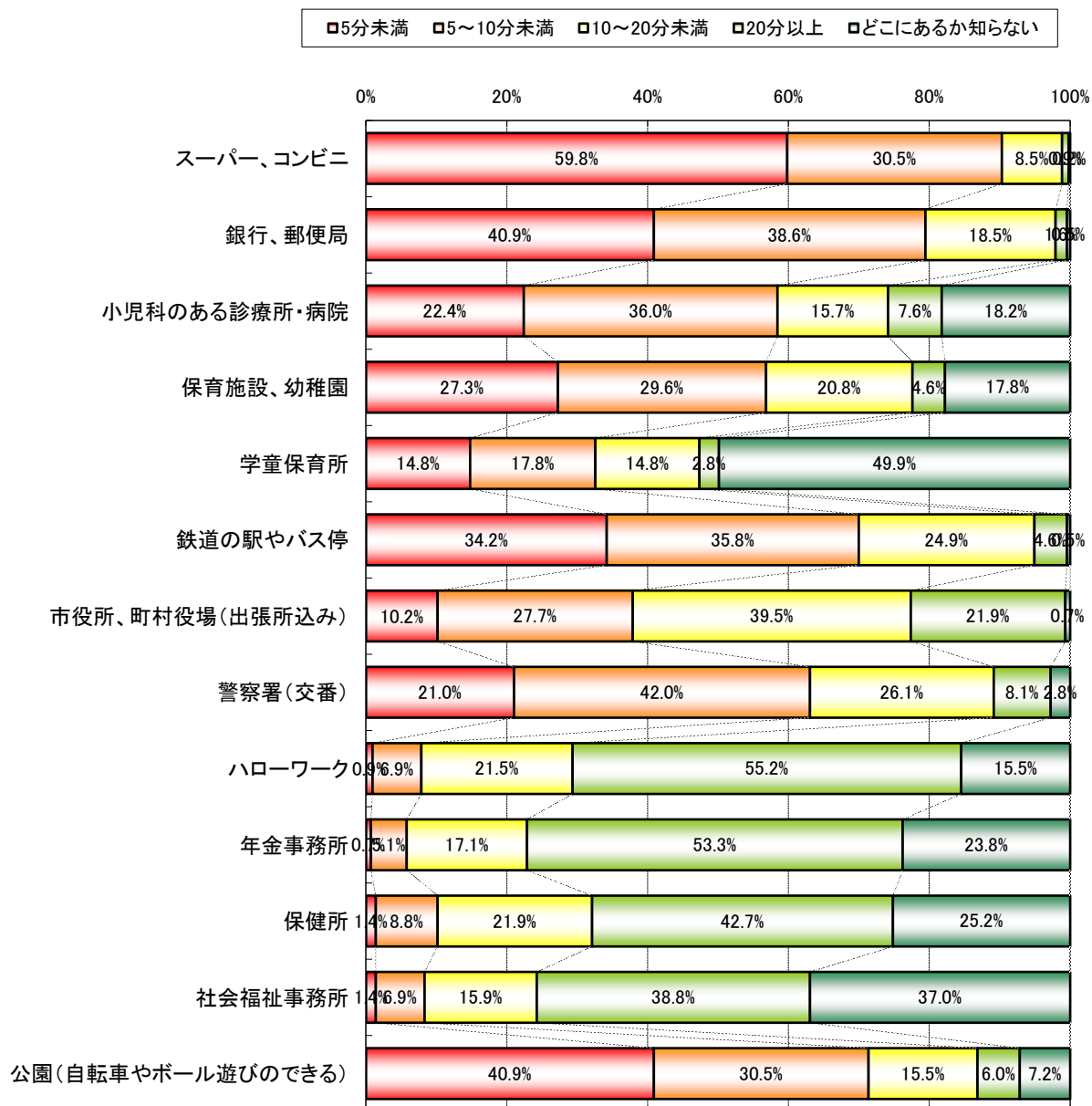
住宅や設備の状況は図表 71 に示したとおりである。耐震性に問題がある住宅が 37%、防犯上問題がある住宅が 27%であった。さらに、5年以内のリフォームを計画している人が 12%、5年以内の転居を計画している人が 18%いた。

〔図表71〕 現在お住まいの住宅や設備について、お尋ねします。



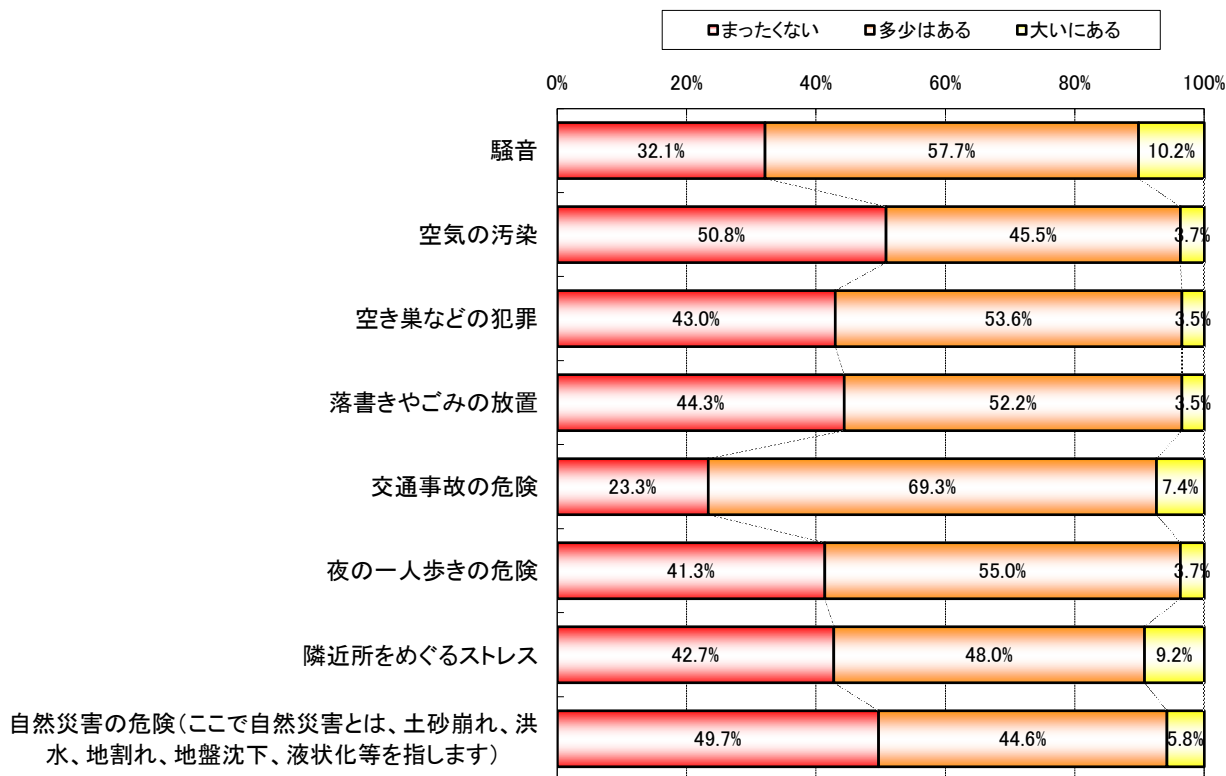
最寄りの福祉事務所がどこにあるのかわからない人が37%いた。また、25%が保健所の場所を、24%が年金事務所の場所を、16%がハローワークの場所をそれぞれ知らないと回答していた。

[図表72] 下の施設まで日常の交通手段(徒歩、自転車、自動車、バスなど)でどのくらいかかりますか。



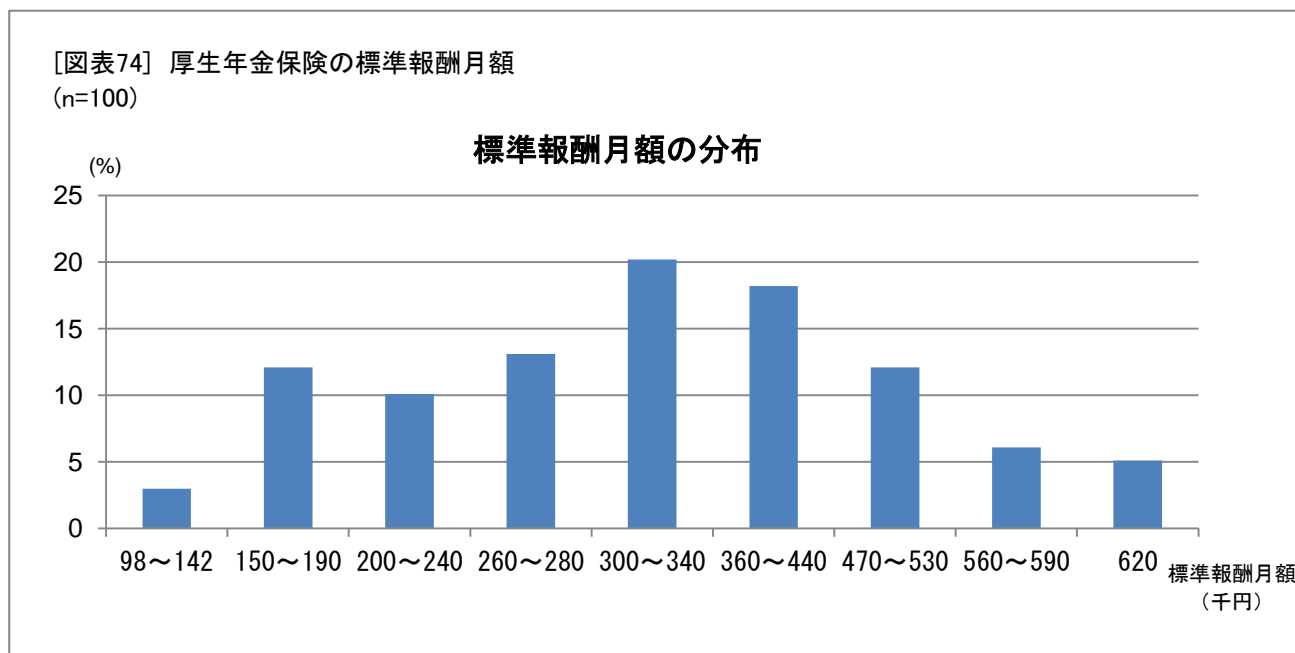
居住地において交通事故の危険があると回答した人は77%に達していた。また、騒音問題があるとした人は68%、夜の1人歩きが危険とした人が59%、空き巣などの犯罪のおそれがあるとした人57%、隣近所をめぐるストレスを抱える人57%、自然災害の危険がある人50%であった。

〔図表73〕 あなたの居住地の安全性や環境に問題がありますか。



公的年金への加入実績と標準報酬月額分布

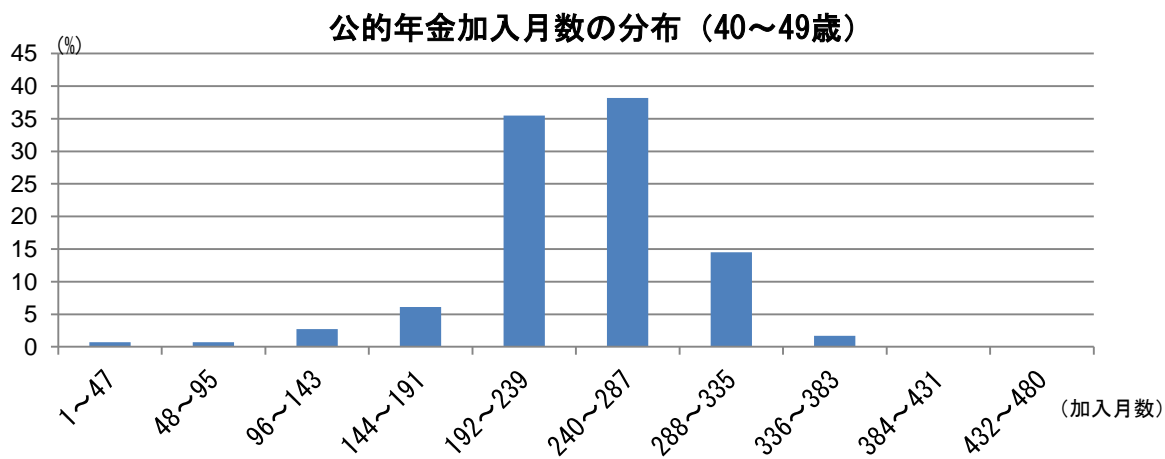
厚生年金保険に加入した実績のない人が3.9%いた。さらに、調査時点において厚生年金保険に加入していた人に限定すると、標準報酬月額の最頻値は30～34万円であり、その中央値は32万円、平均値35万円であった。なお、20万円未満の人が15%、28万円以下の人38%いた。



40歳台の未婚男性に係る公的年金加入月数の分布は図表75のとおりであり、192ヶ月（16年）以上288ヶ月（24年）未満の人が4分の3近くとなっていた。そのうち厚生年金保険加入月数は192ヶ月以上240ヶ月未満（16年以上20年未満）が最多である一方、国民年金第1号加入月数は48ヶ月（4年）未満が最も多かった。

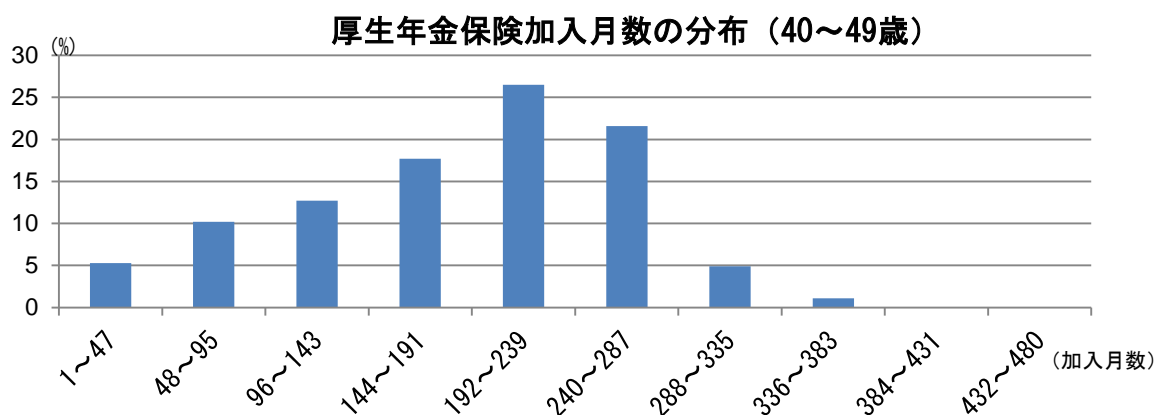
[図表75] 公的年金加入月数(40～49歳)

(n=296)



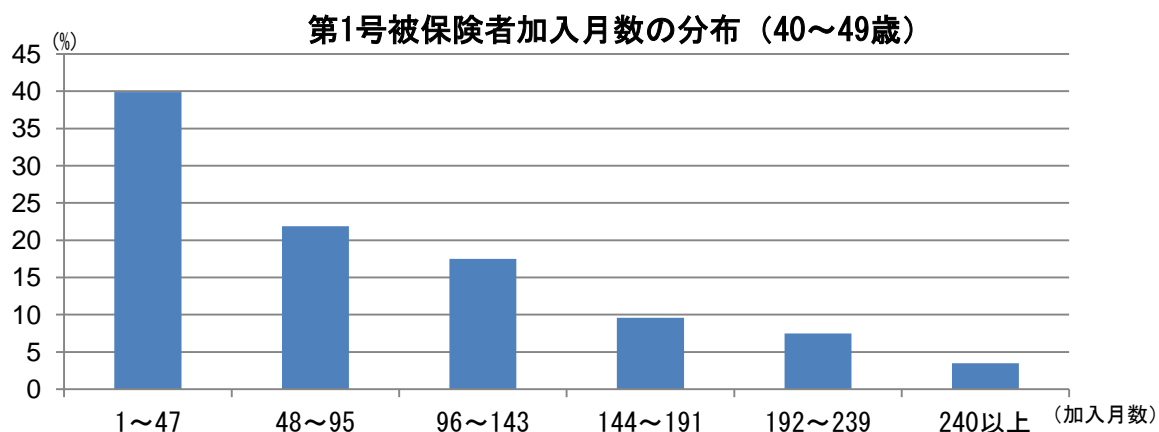
[図表76] 厚生年金加入月数(40～49歳)

(n=296)



[図表77] 第1号被保険者加入月数(40～49歳)

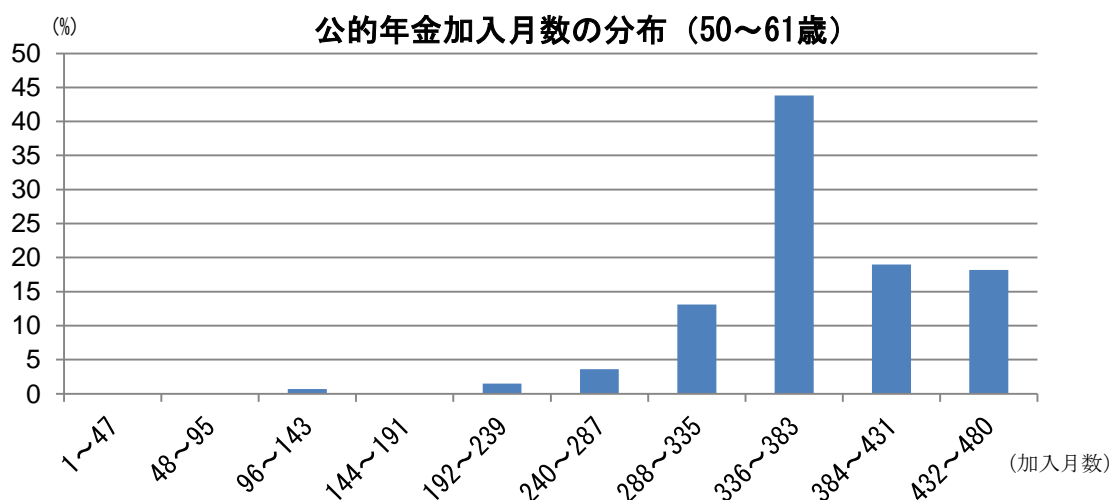
(n=296)



一方、50歳台の未婚男性（調査年度末の年齢が61歳の人を含む）の加入月数は336ヶ月以上384ヶ月未満（28年以上32年未満）が44%を占め、最多となっていた。厚生年金加入月数の最頻値も公的年金制度全体のそれと同じであった。50歳台の最頻値は40歳台のそれより当然のことながら長いところにある。なお、50歳台にいる人の第1号被保険者加入月数は48ヶ月（4年）未満の人が最も多く、この点は40歳台と変わりがなかった。さらに、公的年金加入月数240ヶ月未満の人が、わずかとはいえ2.2%いた。

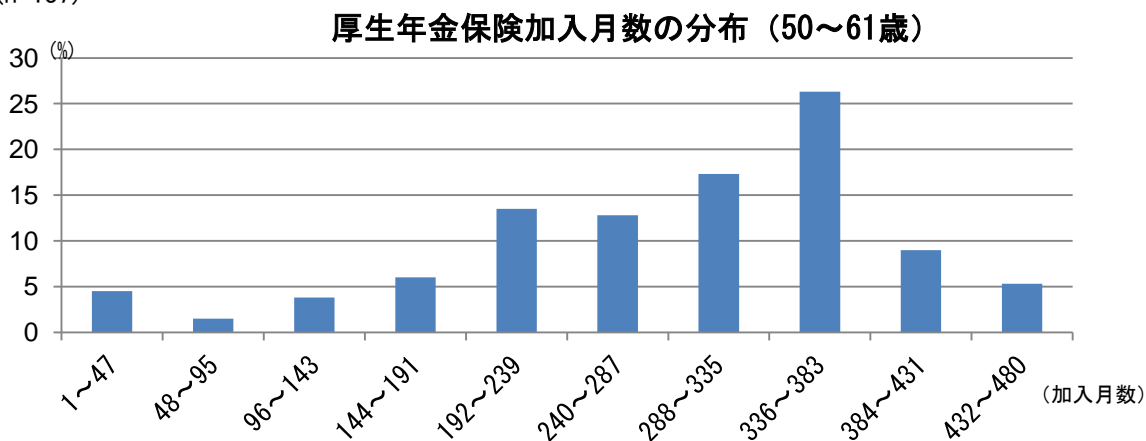
[図表78] 公的年金加入月数(50~61歳)

(n=137)



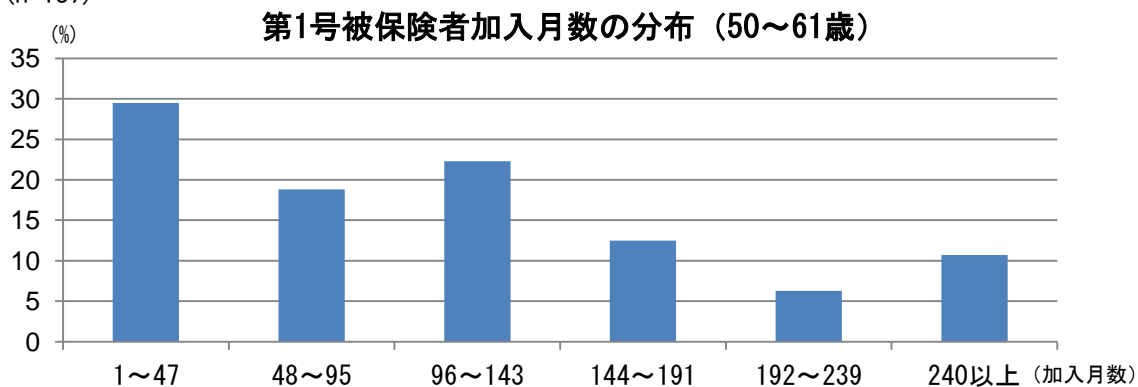
[図表79] 厚生年金加入月数(50~61歳)

(n=137)



[図表80] 第1被保険者加入月数(50~61歳)

(n=137)



4 主要ポイントの要約と残された課題

本論文で明らかになった主要な事実は以下のとおりである。

- 1) 未婚の中年男性は親と同居している人が相対的に多い。
- 2) 未婚の中年男性は有配偶者と比べると、正社員で働いている人が少なく、非正規や失業中あるいは無職の人が多。また、自営業や自由業を営んでいる人も多。
- 3) 非正規の未婚中年男性のうち3分の2強は正規並みに週30時間以上、就労している。
- 4) 向う2年以内における失業・解雇・転職の可能性は未婚中年男性の方が有配偶者より高めである。
- 5) 未婚中年男性のうち仕事に不満を抱いている人の割合は40%に近く、彼らの多くは他の仕事に変わりたい、または仕事をすっきりやめたいと願っている。
- 6) 未婚中年男性の41%は中学生時代に異性の友人が1人もいなかった。
- 7) 未婚中年男性の3分の2近くが「40代の女性も30代の女性と同程度の妊娠可能性を有している」と誤解している。
- 8) 妻との同居を老後に予定している未婚中年男性が17%、自分は妻に介護してもらおうという未婚中年男性が12%いたが、彼らの40歳以上における結婚可能性はほとんどゼロに近い。
- 9) 未婚中年男性の方が有配偶者より健康上の問題を抱えている人が多い。
- 10) 未婚中年男性のうち朝食を必ず摂る人は58%、睡眠を十分にとる人は39%であった。
- 11) 自分でほとんど夕食を作らない人が未婚中年男性の54%を占めていた。
- 12) 自分は価値のない人間だと思っている人や、気分が沈みこみ、気が晴れないという人が未婚中年男性には相対的に多かった。また、「これから先、楽しみにしている計画がない」という人が60%近くに及んでいた。
- 13) 未婚中年男性の60%は現在の生活に多かれ少なかれ不満を有していた。
- 14) 未婚中年男性の65%が帰属階層は「下」または「中の下」であると思っている。
- 15) 未婚中年男性の本人年収（2010年分）は平均値が390万円強であったものの、100万円未満の人が20%、100万円以上200万円以下が16%を占め、300万円未満の低所得者が合わせて48%に達していた。
- 16) 未婚中年男性のうち父親から経済的支援を受けていた人が17%、母親から経済的支援を受けていた人が13%いた。また、母親から家事の手助けをしてもらっている人が34%（母親存命中の場合は59%）いた。
- 17) 未婚中年男性の57%は隣近所をめぐるストレスを抱え、また、その半数が自然災害の危険がある地域に住んでいた。
- 18) 調査時点で厚生年金保険に加入していた未婚中年男性の標準報酬月額（税・社会保険料・通勤手当込みの給与）は平均で35万円であったものの、20万円未満の人が15%いた。
- 19) 50歳台未婚男性の場合、公的年金加入実績20年未満の人が、わずかとはいえ2.2%いた。

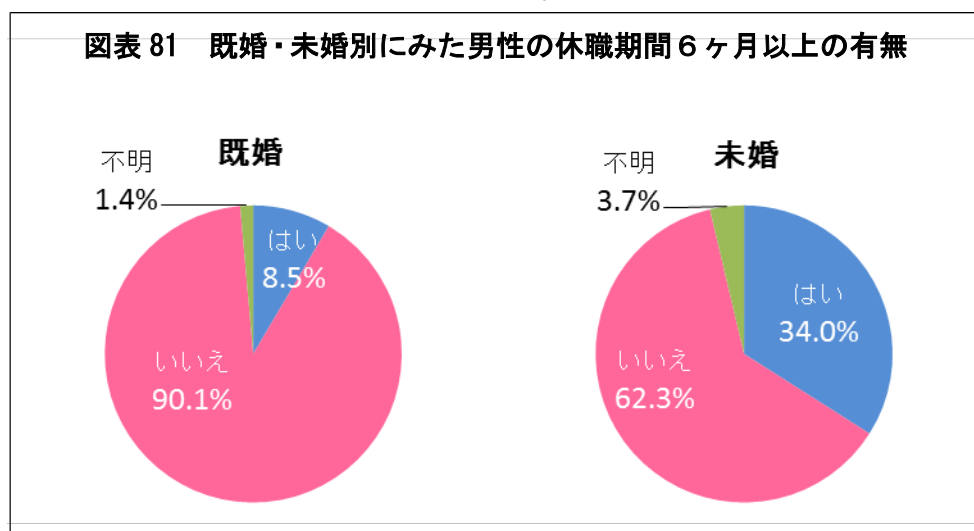
本論文において今後に残された主な課題を最後に列挙しておこう。まず、第1は本論文で使用したデータのサンプルバイアスに関する詳細なチェックである。次に、本論文では単純集計結果の紹介を主目的としており、精緻な多変量解析は、いっさい試みていない。さらに、有配偶の中年男性と比較することも部分的作業にとどまっている。未婚の中年女性との対比も、ここでは全くしなかった。くわえて、生涯未婚者への政策対応に関する議論にも、いっ

さい踏みこんでいない。本論文は政策論以前の基礎的な事実確認作業に終始している。

注：

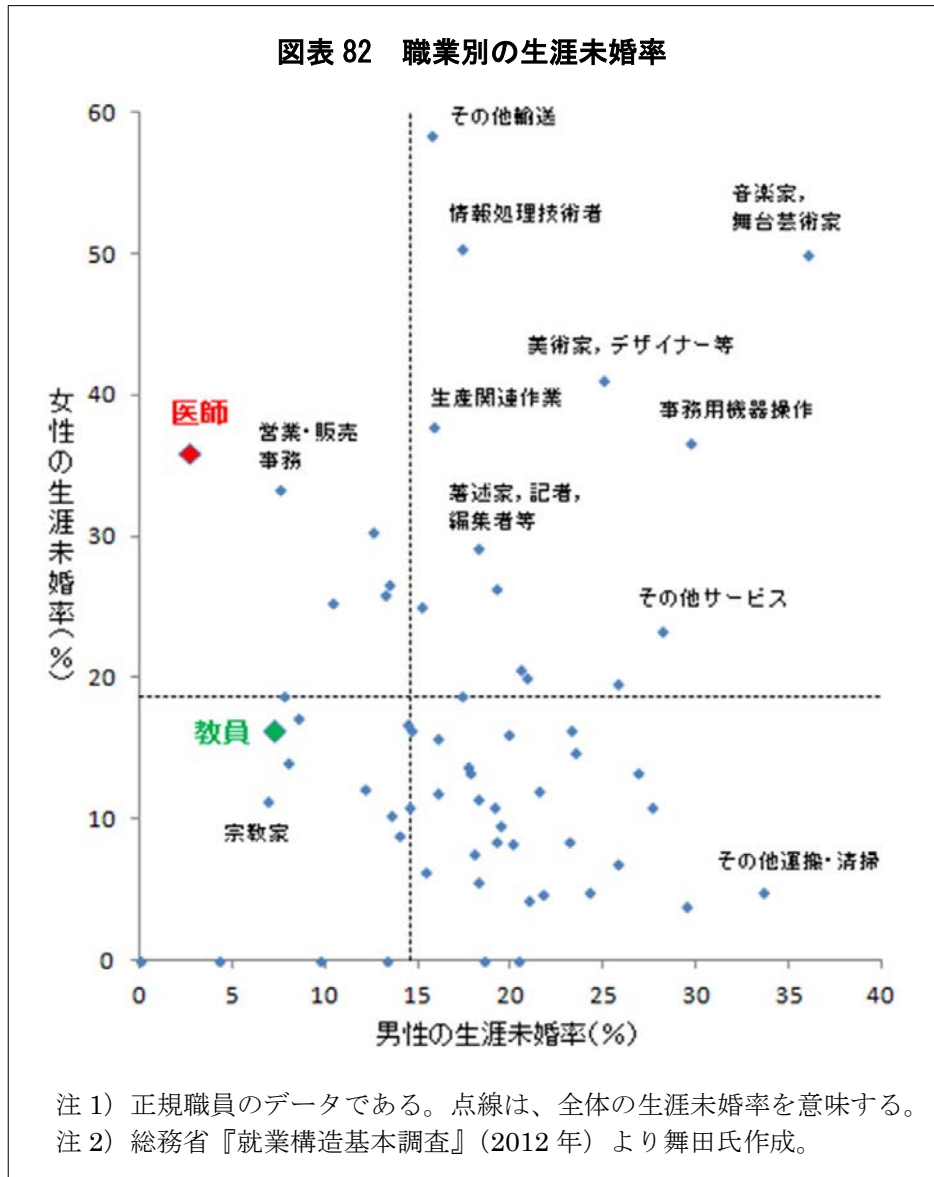
1. 近年、配偶者関係不詳という回答が『国勢調査』においても増大している。図表2の変化率が若干のプラスになっているのは、そのためであり、統計誤差の範囲内にあると考えてもよいだろう。

2. 世代間問題研究プロジェクト「第1回くらしと仕事に関する調査」(LOSEF 郵送調査、2012年実施、パイロット調査分を合算)によると、40歳台に位置する未婚男性(191サンプル)の場合、休職期間6ヶ月以上を経験した人が34%に達していた。有配偶男性(979サンプル)の場合、その割合は8.5%にすぎなかったため、中年未婚男性は就業上の問題を抱えている人が少なくなかった(図表81)。



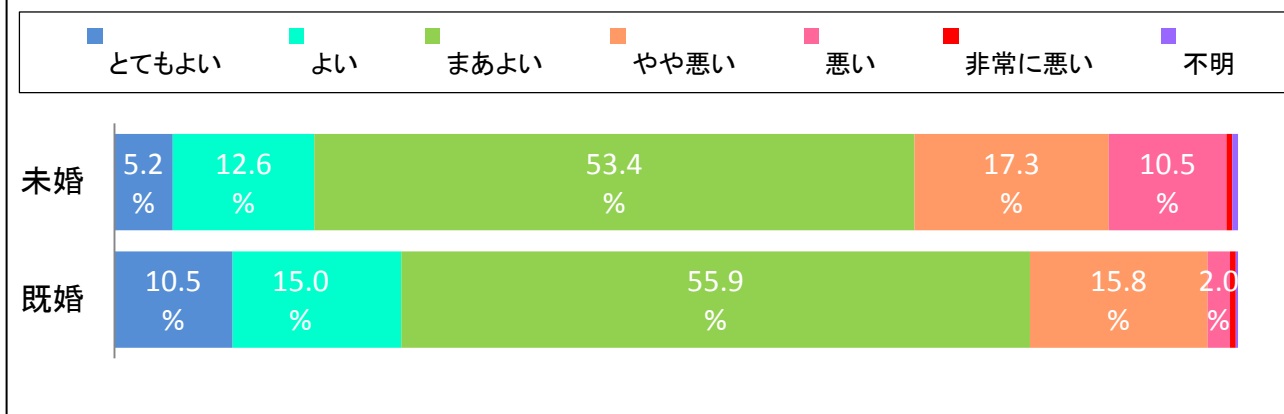
3. 舞田敏彦氏(ニューズウィーク日本版、2015年9月1日号)によると、職業別の生涯未婚率(50歳時点の未婚率)は違いが大きい。男性の場合、芸術・創作系の職業、さらにはサービス職や労務職の生涯未婚率が高い一方、女性の場合は芸術職・技術職・事務職・医師など高収入の人の生涯未婚率が高い。なお、教員は男女とも生涯未婚率が低い(図表82)。

図表 82 職業別の生涯未婚率



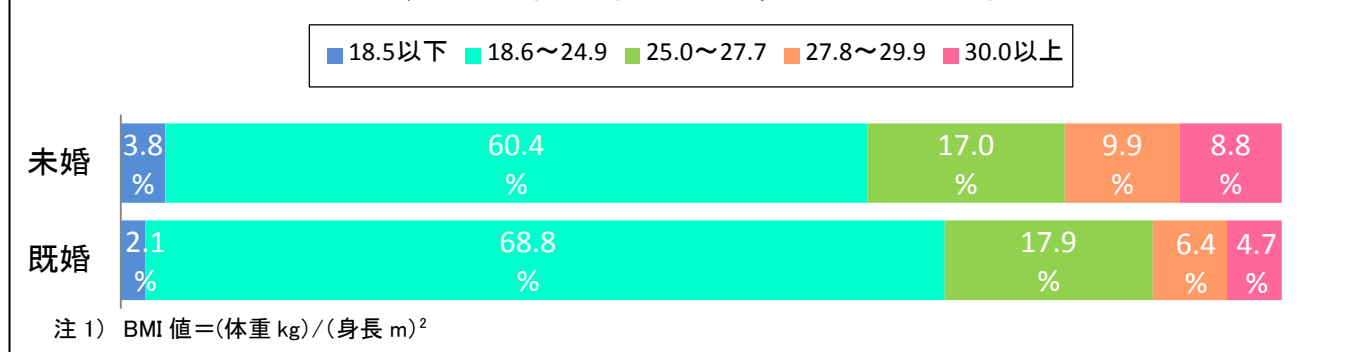
4. 世代間問題研究プロジェクト「第1回くらしと仕事に関する調査」(LOSEF 郵送調査、2012年実施、パイロット調査分を合算)によると、40歳台に位置する未婚男性(191サンプル)の場合、健康状態が「やや悪い」17%、「悪い」11%、「非常に悪い」0.5%であった。有配偶男性(979サンプル)の場合、それぞれ16%、2%、0.5%であったので、健康面で問題を抱える人は中年未婚男性の方が多めであった(図表 83)。

図表83 既婚・未婚別にみた男性の健康状態分布



5. 世代間問題研究プロジェクト「第1回くらしと仕事に関する調査」(LOSEF 郵送調査、2012年実施、パイロット調査分を合算)によると、40歳台に位置する未婚男性(191サンプル)の場合、BMI値(肥満指数)の分布は図表84のようになっていた。BMI値25.0以上(太っている、または肥満)の人が35.7%を占め、有配偶男性(979サンプル)のそれ(29.1%)を上回っていた。中年未婚男性は、太っている、または肥満の人が比較的多く、その分、糖尿病などの発症確率が高い。なお、最近、肥満指数の新基準が発表され、BMI値27.8以上が「太っている、または肥満」と変更された。

図表84 既婚・未婚別にみた男性のBMI値分布



6. 中年の平均余命は未婚者の方が有配偶者よりも短いと言われている。ちなみに、金子隆一氏からの提供データによると、2010年時点における65歳時の平均余命は未婚男性が14.7年、有配偶男性19.5年となっていた(図表85)。未婚者の方が有配偶者より5年ほど短い。ただ、未婚者の中には健康に恵まれない人が多めに含まれている可能性もある。平均余命の短い人の方が結婚確率は低い、というように図表85は読むべきであるかもしれない。なお、未婚者と有配偶者の間の平均余命格差は最近、縮小する傾向にある。未婚者の平均余命改善が全体のそれを若干ながら上回っていたからである。最近の未婚者増は健康以外の要因によるところが小さくないかもしれない。

図表 85 配偶関係別にみた平均余命、生存確率：2010年

	男					女				
	総数	未婚	有配偶	死別	離別	総数	未婚	有配偶	死別	離別
平均余命(年)										
20歳時	60.0	54.3	62.0	55.8	48.7	66.6	61.8	68.8	64.8	61.6
40歳時	40.7	35.2	42.4	37.7	31.6	47.1	42.4	49.0	46.2	42.8
65歳時	18.7	14.7	19.5	17.3	13.4	23.8	20.1	25.5	23.5	20.6
生存確率(%)										
20～40歳	98.5	98.0	99.3	95.7	93.0	99.2	98.9	99.6	97.4	97.8
20～65歳	87.5	78.8	91.6	79.6	65.5	94.0	89.6	95.3	90.7	88.8
20～80歳	59.4	37.8	65.2	48.3	27.3	79.4	66.0	82.8	75.3	66.2
65～80歳	67.8	48.0	71.1	60.7	41.6	84.5	73.7	86.9	83.1	74.5

引用) 金子隆一氏提供資料

【謝辞】

本章の執筆にあたり、データ処理や図表作成作業において富岡亜希子さんから献身的かつ絶大なご協力を頂戴した。記して感謝申しあげる。

参考文献

高山憲之・稲垣誠一・小塩隆士 (2012) 『くらしと仕事に関する調査: 2011年インターネット調査』の概要と調査客体の特徴等について」世代間問題研究プロジェクト、DP-551。

http://takayama-online.net/pie/stage3/Japanese/d_p/dp2012/dp551/text.pdf

(公財)年金シニアプラン総合研究機構 (2016)「第4回 独身者(40～50代)の老後生活設計ニーズに関する調査」『年金研究』第2号(本特集号)。

(公財)年金シニアプラン総合研究機構 (2011)「第3回 独身女性(40～50代)を中心とした女性の老後設計ニーズに関する調査」年金シニアプラン総合研究機構。

(財)シニアプラン開発機構 (2008)「第2回 独身女性(40～50代)を中心とした女性の老後生活設計ニーズに関する調査」シニアプラン開発機構。

(財)シニアプラン開発機構 (2001)「独身女性(40～50代)を中心とした中年女性の老後生活設計ニーズ及び社会的支援に関する調査」シニアプラン開発機構。

藤森克彦 (2010)「単身急増社会の衝撃」日本経済新聞出版社。